

2025年度事業報告書

(2025年4月1日から2026年3月31日まで)

学校法人 大阪音楽大学

I 法人の概要

【1】 建学の精神

世界音楽並ニ音楽ニ関連セル諸般ノ芸術ハ之ノ学校ニヨッテ統一サレ
新音楽新歌劇ノ発生地タランコトヲ祈願スルモノナリ

【2】 学校法人の主な沿革

1915年（大正 4年）	創立者永井幸次により、大阪市南区塩町（現、中央区南船場）に大阪音楽学校を開校
1926年（大正15年）	大阪市東区味原町（現、天王寺区味原本町）に移転
1948年（昭和23年）	大阪音楽高等学校開校
1951年（昭和26年）	大阪音楽短期大学開学
1954年（昭和29年）	豊能郡庄内町野田（現、豊中市庄内幸町）の現校地に移転
1957年（昭和32年）	附属児童音楽学園開設
1958年（昭和33年）	大阪音楽大学開学 大阪音楽高等学校を附属音楽高等学校に改称
1959年（昭和34年）	大阪音楽短期大学を大阪音楽大学短期大学部に改称
1966年（昭和41年）	音楽文化研究所開設（のちに音楽研究所に改組） 附属児童音楽学園を附属音楽学園に改称
1967年（昭和42年）	大学と短期大学部に各音楽専攻科設置 附属音楽幼稚園開設
1968年（昭和43年）	大学院音楽研究科開設 附属楽器博物館開設
1980年（昭和55年）	K号館竣工（音楽文化研究所、附属楽器博物館を移転）
1981年（昭和56年）	附属音楽高等学校閉校
1989年（平成元年）	ザ・カレッジ・オペラハウス開館
2000年（平成12年）	P号館（ミレニアムホール）竣工
2002年（平成14年）	音楽博物館開設（附属楽器博物館、音楽研究所などを統合して改組）
2003年（平成15年）	附属音楽院を開設（附属音楽学園を改組）
2004年（平成16年）	短期大学部を改組、新たにジャズ・ポピュラー専攻開設
2009年（平成21年）	短期大学部を改組、音楽科の下に11コースを置く
2011年（平成23年）	短大専攻科を音楽専攻の1専攻に改組

2012年（平成24年）	大学音楽学部作曲学科・声楽学科・器楽学科の3学科を廃止し、音楽学科1学科を新設、ジャズ・クラシックギター・電子オルガン専攻を開設、短期大学部音楽科にクラシックギター・ダンスパフォーマンスコースを開設
2016年（平成28年）	大学音楽学部音楽学科にミュージッククリエーション専攻・ミュージックコミュニケーション専攻を開設 100周年記念館（新K号館）竣工
2017年（平成29年）	音楽博物館を大阪音楽大学メディアセンター楽器資料館と改称 附属音楽院さくら夙川校開設
2018年（平成30年）	大学音楽学部音楽学科クラシックギター専攻をギター・マンドリン専攻に改称 短期大学部音楽科クラシックギター・コースをギター・マンドリン・コースに改称
2020年（令和2年）	短期大学部音楽科作曲コースと電子オルガン・コースを統合し、作曲デザイン・コースを開設 短期大学部音楽科ポピュラー・コースを改組し、ヴォーカルパフォーマンス・コース、ポピュラーインストゥルメント・コースを開設 附属音楽院さくら夙川校閉校
2021年（令和3年）	大阪音楽大学音楽学部音楽学科にヴォーカルパフォーマンス専攻、ポピュラーインストゥルメント専攻を開設
2022年（令和4年）	大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部が公益財団法人日本高等教育評価機構による大学・短期大学機関別認証評価受審の結果、「大学評価基準・短期大学評価基準に適合している」と認定 大阪音楽大学音楽学部音楽学科にミュージックビジネス専攻を開設
2023年（令和5年）	大阪音楽大学音楽学部音楽学科ヴォーカルパフォーマンス専攻とポピュラーインストゥルメント専攻改組し、ポピュラーエンターテインメント専攻を開設 短期大学部音楽科ヴォーカルパフォーマンス・コースとポピュラーインストゥルメント・コースを改組し、ポピュラーエンターテインメント・コースを開設 大阪音楽大学音楽学部音楽学科パイプオルガン専攻を募集停止
2024年（令和6年）	大学音楽学部音楽学科のミュージックコミュニケーションを地域創生ミュージックマネジメント専攻に改称 大学音楽学部音楽学科電子オルガン専攻を募集停止 短期大学部音楽科に音響照明コースを開設
2025年（令和7年）	大阪音楽大学音楽学部音楽学科地域創生ミュージックマネジメント専攻をミュージックコミュニケーション専攻に改称 大阪音楽大学短期大学部専攻科音楽専攻のヴォーカルパフォーマンス・コースとポピュラーインストゥルメント・コースを改組し、ポピュラーエンターテインメント・コースを開設

【3】 役員・教職員の概要

理 事

理事定数8～10人 理事の現員数10人

役職名	氏名	執務	理事就任(退任)年月日	主な現職・前職等
理事長	北野 徹	常時執務	2022年7月1日	大阪音楽大学同窓会<幸楽会>会長
常任理事	高 昌帥	常時執務	2012年10月1日	大阪音楽大学副学長
常任理事	福井 慎吾	常時執務	2016年5月29日	(大阪音楽大学前事務局長)
常任理事	森岡 周平	常時執務	2023年6月1日	大阪音楽大学事務局長
常任理事	森本 友紀	常時執務	2024年4月1日	大阪音楽大学学長
理事	岡野 幸義*	非常勤	2012年10月1日	(公財)太平洋人材交流センター理事長
理事	熊谷 美紀	常時執務	2022年4月1日	大阪音楽大学副学長
理事	佐野 吉彦*	非常勤	2025年5月29日	㈱安井建設設計事務所代表取締役社長 CEO
理事	十川 輝明*	非常勤	2010年4月1日	(住友生命社会福祉事業団元常務理事)
理事	永井 譲*	非常勤	1982年6月29日	大阪音楽大学元学長・大阪音楽大学名誉教授

【年度内退任者】

理事	角 和夫*	非常勤	(2025年4月26日)	阪急電鉄(株)代表取締役会長
----	-------	-----	--------------	----------------

監 事

監事定数 2人 監事の現員数2人

氏名	執務	就任(退任)年月日	主な現職・前職等
田邊 恭久*	非常勤	2025年5月29日	元住友生命保険相互会社常務執行役員
水瀧 征矢雄*	非常勤	2018年6月30日	(学校法人大阪音楽大学元常任理事・大阪音楽大学元教授)

【年度内退任者】

青山 成夫*	非常勤	(2025年5月29日)	((公財)住友生命健康財団元常務理事)
--------	-----	--------------	---------------------

評議員

評議員定数 9～11人 評議員の現員数11人

氏名	選任条項	就任(退任)年月日	主な現職・前職等(在任時)
石橋 栄実	法人職員	2020年5月29日	大阪音楽大学教授・付属音楽院長
大澤 弘之	卒業者	2022年12月22日	大阪成蹊大学教授、京都教育大学名誉教授
大田 美佐子	学識経験者	2022年6月1日	神戸大学大学院人間発達環境学研究科 教授
加藤 理恵	法人職員	2010年6月30日	大阪音楽大学付属音楽幼稚園園長
児玉 祐子	卒業者	2021年4月1日	公益財団法人関西二期会理事
崎元 利樹	学識経験者	2022年6月30日	公益財団法人関西・大阪 21 世紀協会理事長

芝 道雄	学識経験者	2018 年 6 月 30 日	ダイキン工業株式会社コーポレートコミュニケーション室シニアスキルスペシャリスト
縄田 雅紀	法人職員	2025 年 5 月 29 日	経理・人事事務部門長
林 紀夫	学識経験者	2022 年 6 月 30 日	関西労災病院病院長、大阪大学名誉教授
本郷 卓	卒業者	2022 年 6 月 30 日	滝川第二中学校・高等学校校長
松尾 徹	学識経験者	2013 年 12 月 1 日	非破壊検査株式会社特別顧問

【年度内退任者】

井上 建夫	学識経験者	(2025 年 5 月 29 日)	公益財団法人守山市文化体育振興事業団副理事長
江良 成人	法人職員	(2025 年 5 月 29 日)	大阪音楽大学調査役／前連携・演奏事務部門長
北野 徹	卒業者	(2025 年 5 月 29 日)	大阪音楽大学同窓会〈幸楽会〉会長
久保 洋子	法人職員	(2025 年 5 月 29 日)	大阪音楽大学教授
高 昌帥	法人職員	(2025 年 5 月 29 日)	大阪音楽大学短期大学部副学長
駒井 肇	法人職員	(2025 年 5 月 29 日)	大阪音楽大学短期大学部教授
下村 義和	学識経験者	(2025 年 5 月 29 日)	元豊中市消防局次長 豊中市消防局再任用職員
田邊 恭久	学識経験者	(2025 年 5 月 29 日)	住友生命保険相互会社顧問
鳥居 知行	法人職員	(2025 年 5 月 29 日)	大阪音楽大学教授
水谷 雅男	卒業者	(2025 年 5 月 29 日)	大阪音楽大学同窓会〈幸楽会〉副会長
森岡 周平	法人職員	(2025 年 5 月 29 日)	大阪音楽大学事務局長
森本 友紀	法人職員	(2025 年 5 月 29 日)	大阪音楽大学教授

役員賠償責任保険契約の概要

- ・被保険者：役員（理事・監事）及び評議員
- ・補償内容：役員及び評議員（被保険者）の行為に起因して、被保険者に対して損害賠償請求がなされた場合に、被保険者が負担する法律上の賠償金等を補償する。
- ・保険期間：1年間

責任限定契約の内容の概要

- ・私立学校法第44条第1項の規定により準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第115条の規定及び本法人寄附行為に基づき、理事4人及び監事2人との間で、私立学校法第44条第1項において準用する同法第113条第1項に定める最低責任限度額をもって責任の上限とする旨の責任限定契約を締結している。

学長及び幼稚園長

大阪音楽大学学長	森本 友紀
大阪音楽大学短期大学部学長	森本 友紀
大阪音楽大学付属音楽幼稚園長	加藤 理恵

【4】 設置する学校・学部・学科等 及び 入学定員、学生数の状況（在籍数は2025年5月1日現在）

●大阪音楽大学 音楽学部

学 科	入学定員	入学者数	3年次編入 入学定員	収容定員	在籍数	収容定員充足率
音楽学科	220人	220人	10人	900人	893人	99.2
計	220人	220人	10人	900人	893人	99.2

●大阪音楽大学 音楽専攻科

専 攻	入学定員	入学者数	在籍数	定員充足率
作曲専攻	1人	0人	0人	0
声楽専攻	5人	5人	5人	100.0
器楽専攻	14人	10人	10人	71.4
計	20人	15人	15人	75.0

●大阪音楽大学 大学院

研 究 科	専攻	入学定員	入学者数	収容定員	在籍数	収容定員充足率
音楽研究科	作曲専攻	2人	4人	4人	6人	150.0
	声楽専攻	4人	3人	8人	13人	162.5
	器楽専攻	7人	10人	14人	20人	142.9
計		13人	17人	26人	39人	150.0

●大阪音楽大学短期大学部

学 科	入学定員	入学者数	収容定員	在籍数	収容定員充足率
音楽科	100人	70人	200人	190人	95.0
計	100人	70人	200人	190人	95.0

●大阪音楽大学短期大学部 専攻科

専 攻	入学定員	入学者数	在籍数	定員充足率
音楽専攻	15人	15人	15人	100.0

●大阪音楽大学付属音楽幼稚園

学 年	定 員	在園児数
3歳児3学級	105人	67人
4歳児3学級	105人	57人
5歳児3学級	105人	74人
計	315人	198人

Ⅱ 事業の概要

2025年度は、中期事業計画（2021年度～2025年度）の最終年度として、各重点推進項目の総仕上げを行うとともに、創立110周年の節目を祝した。

創立110周年記念演奏会では、創立者の理念を象徴する『永井幸次讃歌』の上演や吹奏楽作品作曲コンクールを開催し、本学の伝統と創作・演奏の総合力を広く社会に発信した。

ガバナンス面では、改正私立学校法に対応した新寄附行為の認可を受け、透明性の高い運営体制を確立、運用に移した。

教学面では、大学2専攻、短大1コースの学びを統合・再編した「音楽クリエイター専攻」（大学）の開設準備を完遂し、学修者本位の教育課程への転換を加速させた。

また、完成年度を迎えたミュージックビジネス専攻（大学）の一期生が音楽・エンタメ業界を中心に企業就職を順調に果たし、実効性のある教育支援として結実した。

また、第4期評価システムに基づく自己点検・評価報告書の公表を通じて内部質保証を強化するとともに、財務面では厳しい課題に対し、事業の選択と集中による収支構造の抜本的改善に向けた足固めを継続した。

本学は今後も、110年の伝統を堅持しつつ、時代の要請に応える魅力ある大学づくりを推進していく。

以下 内は事業名を示す。

A 教育・研究事業

【1】大学院・大学・音楽専攻科・短大・短大専攻科

<大学院>

大学院音楽研究科の作曲研究室1人、音楽学研究室5人、声楽研究室12人、ピアノ研究室7人、管弦打研究室12人に計37人が在籍している。各研究室による修士リサイタル（1年）、修士演奏（2年）、修士論文の審査と口述試験の結果、音楽学2人、声楽9人、ピアノ2人、管弦打7人の計20人が修了した。

11月18日に大学院定期演奏会をザ・カレッジ・オペラハウスにおいて開催し、学生の研究成果である多彩なプログラムによって、本学大学院の質の高さを内外に示すことができた。

<大学>

音楽学部音楽学科に893人が在籍し、201人が（うち6人は前期に）卒業した。卒業生の中から、最優秀賞6人、優秀賞9人、音楽・社会活動賞1人を表彰した。

地域創生ミュージックマネジメント専攻からミュージックコミュニケーション専攻へと名称を再び戻すことで専攻本来の立ち位置を再確認した。また、一部の科目において、オンライン授業やオンデマンド授業等の遠隔授業の可能性を模索している。

<大学音楽専攻科>

音楽専攻科に声楽専攻5人、器楽専攻10人（ピアノ5人、管楽器2人、弦楽器1人、打楽器1人、邦楽1人）の計15人が在籍し、全員が修了した。「音楽実践演習」の一環として、学外にて学生自らが企画・演出・出演する「オータムコンサート」をLIC はびきの（10月18日）、西宮市民会館（11月8日）の2会場で実施し、社会における実践的活動を体験した。LIC はびきのでの公演ではタイトルを「Bar Daionへようこそ！世界を巡るお酒と音楽」とし、各国のお酒にまつわる国内外の曲目を戯曲仕立てで紹介しながら多様な楽器編成や声楽アンサンブルで演奏し、変化に富んだプログラム構成の魅力的な公演となった。西宮市民会館での公演では「音楽の国の不思議な大冒険」として、観客対象が子どもと保護者であったため、親子で楽しめるような良く知られた楽曲を演奏していた。また、二部構成による演奏のため、子どもが集中を切らすことなく気楽に楽しめる内容のとなっており、ホール管理者からも高い評価を得ることができた。

<短大>

音楽科には190人が在籍し、86人が（うち3人は前期に）卒業した。卒業生の中から優秀賞6人を表彰した。また2024年度より発足した音響照明コースが完成年度を迎え、20人が卒業した。

<短大専攻科>

短大専攻科には15人が在籍し、14人が修了した。在籍するすべての学生が自ら企画・出演する「コンサート・プロデュース」を7月9日にミレニアムホールで実施した。「SUMMERDAYS」と銘打ち、コンサートステージと企画ステージ『緑COUNTER』の二部構成で、観るものを楽しませる舞台を作り上げていた。

<キャリア関連>

入学式後に保護者を対象としたキャリア支援センター見学会を実施し進路サポートの内容や、近年の進路・就職実績の説明を行った。

大学3年次生、短大1年次生を対象に進路ガイダンスを実施。卒業後の進路について理解を深め、具体的な行動に移すための契機として取り組んだ。また、企業就職志望者対象にMIRAIセミナーを11回実施し、自己分析・エントリーシート対策や面接対策等を提供した。（参加延べ126人）。

これらに加えて、進路に係る各種採用説明会を実施した。主に音楽教室（ヤマハ・カワイ等）の講師採用説明会や公立学校教員採用（大阪市、豊能地区、兵庫県、愛媛県）説明会を実施した。他にも多様な進路選択に対応するために、自衛隊音楽隊やパソナ音楽島、神戸市職員等の採用説明会を実施した。また、創作系専攻とビジネス系専攻のニーズに合わせた大手ゲームメーカーによるサウンド職説明会や音楽系企業説明会も多数開催した。

こうした説明会等の他に、講座やセミナーを多数開催しており、韓国語講座、TOEICテスト対策講座、音楽留学セミナー、教員採用試験対策として筆記試験及び模擬面接なども行った。さらに、音楽教室講師を目指す学生には、ヤマハ音楽指導及び演奏グレード5級取得準備講座、音楽教室起業セミナーを開催した。

また、全保護者対象にキャリア支援に関するガイダンスを実施し、本学のキャリア支援の仕組みと社会で活躍する卒業生との懇談を行った。

キャリア支援センター学生支援の柱の一つである定期学生面談を大学3年次生及び短大1年次生を対象に実施した。この学生面談・相談は定期以外にも年間を通じ随時実施している。

最後にキャリア教育の一環であるインターンシップは、公共ホールや楽器店、音楽団体などの協力を得て春期に年一回実施し、18の企業・団体に延べ38人を派遣した。実習前にはマナー等の事前指導を行った。その他、一般企業へのインターンシップ希望者には、リクナビ、マイナビ等のセミナーを開催し情報提供を行った。

学長主導の教育改革

●要旨

本学においては、従来より建学の精神及び三つのポリシーに基づき教育課程の検証・改善を継続してきたが、2020年以降のコロナ禍を契機として顕在化した教育上の諸課題を踏まえ、CI（College Identity）活動の再点検を実施し、学長主導のもと教育改革を推進した。

具体的には、教員評価制度を通じた教育力向上の取組を継続するとともに、多様な学生への対応としてリメディアル教育の整備やメンタルケア体制の充実を図った。また、卒業生の進路の多様化に対応し、キャリア教育の強化を進めた。さらに、「演奏を伴わない領域」としてミュージックコミュニケーション専攻、ミュージックビジネス専攻、音響照明コースを展開し、従来の音楽大学の枠組みを拡張する教育内容の充実を図った。

●成果及び達成度

CIに基づく教育改革は着実に進展し、本学の教育の質的向上及び多様な人材育成に資する基盤整備が進んだ。とりわけ、リメディアル教育の体系化及び学修支援の充実により、基礎学力の底上げと学修定着の向上が図られた。また、学生相談体制の強化により、メンタル面を含めた包括的な支援体制の整備が進展した。

加えて、キャリア事務部門を中心とした支援体制の強化により、一般企業への就職を含めた進路の多様化に対応し、就職支援の充実が図られた。

これらの取組により、本学における教育及び学生支援の質保証に関する取組は、継続事業として着実に進展し、質的向上が一層推進された。

●今後の展望

今後は、これまでのCI (College Identity) 活動の再点検及びそれに基づく教育改革の取組を一つの節目と捉え、その成果を基盤として新たな段階へと移行していく。

また、社会的要請を踏まえたキャリア教育の深化並びに「演奏を伴わない領域」を含む教育内容のさらなる発展を通じて、本学の特色を一層明確化し、多様な人材の育成に資する教育の展開を推進する。

音楽クリエイター専攻（大学）開設に向けた準備活動

●要旨

音楽分野を取り巻く社会的要請の変化及び産業構造の多様化に対応するため、本学においては音楽クリエイター専攻の開設に向けた準備を進めた。

●成果及び達成度

本準備においては、教育課程の設計、授業科目の編成、教員組織の整備をはじめ、デジタル技術を活用した創作・制作教育の充実を視野に入れたカリキュラム開発を行った。また、音楽制作、コンテンツ産業等との接続を意識した実践的教育内容の構築に努めた。

さらに、既存専攻との連携を図り、演奏・理論・ビジネスの各領域との相乗効果を生む教育体制の検討を進めた。これらの準備を通じて、現代社会に適応した新たな音楽人材の育成に向けた体制整備を着実に推進した。

ミュージックビジネス専攻（大学）の完成年度に向けた事業運営

●要旨

ミュージックビジネス専攻は、音楽業界で活躍できる人材の育成を目的に 2022 年度に開設され、2025 年度に完成年度を迎えた。音楽業界で必要なノウハウを身に付けるため、実践と知識を併せ持つカリキュラムを編成した。

●成果及び達成度

ミュージックビジネス専攻は就職に強い専攻を目指してきた。その結果、2025 年度卒業生（第 1 期生）の約 9 割が企業に就職し、そのうちの半数が音楽・エンターテインメント業界に進んでいる。

就職した専攻生の多くは、仕事を生活の糧を得るための手段にとどまらず、夢や理想を具現化するものとして捉えている。また、大学での 4 年間の学びは、単なる知識やスキルの習得に終わることなく、新たな音楽の創造や、音楽を通じた豊かな世界の実現を志向する人間性の育成にもつながっている。

●今後の展望

1 期生の就職先には、若者に人気のアーティストの所属事務所やコンサート制作に関わる大手企業、アニメや TV 番組制作の会社などが複数含まれており、この成果を打ち出すことで、優秀な学生の募集に繋げたい。またこれによって、音楽・エンターテインメント業界への就職率をさらに向上させることが出来ると考える。

音響照明コース（短大）の完成年度に向けた事業運営

●要旨

音響照明コースでは、テクノロジーの進化が著しい現代の舞台芸術・エンターテインメント業界のニーズに即応できる人材育成を目指している。

●成果及び達成度

2025 年度は大学全体のオープンキャンパスの同日に 3 回（6/15、11/16、3/22）と、音響照明コース独自に 5 回の計 8 回開催し、延べ 96 人の参加者を得た。毎回コース主任によるコース説明と音響卓と照明機器の操作体験授業、個別相談会を実施している。その結果、2026 年度は 19 人の新入生を迎えることが出来た。また、1 期生のキャリア実績としては 20 人の卒業生の内、音楽・エンタメ業界への就職が 13 人、一般企業が 4 人、進学が 1 人となった。

●今後の展望

今後の展望として、新たな表現手法の創出に不可欠となっている「AI関連の授業」を導入（エンターテインメント演習Ⅰ）。さらに、音響・照明の基本的なアプローチに加え、視覚的な空間演出も担えるよう「映像演出の授業」を新たに開始（ライブ総合演習Ⅰ,Ⅱ）。業界の最前線で求められる多角的なスキルを研究、提供することで、これからの時代にマッチした実践的なコースへと進化させていく。

ミュージックコミュニケーション専攻 年間イベント

●要旨

前年度に続き、阪急宝塚線沿線に点在している複数のホールや大学の施設が連携した「阪急宝塚線ミュージック駅伝MOT!」の運営を行い、本専攻の主催の「思わず歌いたくなる！クリスマス・ゴスペルコンサート」及びオープニングイベント「阪急音物語」フリンジイベント「COFUNICATION 古墳(こふ)ニケーション古代の魂を呼び起こそう!」を開催した。

その他、こども本の森 中之島で「こどもほんのもりコンサート『Bravo!』Vol.4」、とよなか男女共同参画推進センターすてっぷで「映画：雨ニモマケズ上映会」、URシャレール豊中で「団地大好き！大阪音大生 畑末統吾さんと楽しむ ライブ&トークショー」、福井県大野市で「合宿プロジェクト」を実施した。

●成果及び達成度

専攻として、11月15日の「邦楽演奏会」の照明オペレーション、東京大学公共政策大学院の主催「チャレンジ！！オープンガバナンス2025」でのパネル展示、卒業研究発表(コミュフェス)の実施、また、国家資格である舞台機構調整技能士3級に 3人が合格した。

●今後の展望

従来のミュージックコミュニケーション専攻の様々なイベント実施に加えて、地域創生の視点からの新しい活動により、専攻が活性化することを期待している。

ポピュラー学生ライブ

●要旨

毎年2月に開催する「ポピュラーミュージックコンサート」は専攻の特徴を広く発信する最も重要なステージとなる。入学初年度より、ステージに立つための歌唱力・表現力はもちろん「大きな舞台を成功させる」という意識やメンバーとのコミュニケーション、ステージに立つ意味を理解することで、人間的成長だけでなく人々を魅了し、広く影響を与えられる力の習得を目指している。本発表会はその前段階としての授業延長上に位置付け、「ソリストとして何を伝えられるか」「自身の魅力をどのように表現するか」を再認識する機会である。

また、「観客の存在によって成立するステージ」という意識を育む場として実施している。

●成果及び達成度

出演者がソリストとしての表現を追求したパフォーマンスを披露。音源歌唱に加え、弾き語りによる出演も見られ、表現手法の幅が広がっていることが感じられた。また、観客を意識したステージングにおいても成長が見られ、単なる歌唱力だけでなく、総合的なパフォーマンス力の向上が認められた。

この発表を通じて、学生自身が「伝える意識」と「自己表現の課題」を明確にし、「ポピュラーミュージックコンサート」に向けた意識向上に繋がった。

●今後の展望

今後は、この発表会を単なる選抜の場に留めず、より教育的効果の高いプログラムとして発展することを目指したい。例えば、事前に授業内でも歌唱、ステージングなどピンポイントアドバイスなどを担当教員より行い、学生が自身の成長をより実感できる仕組みを整えたい。

最終的には「ポピュラーミュージックコンサート」へと繋がる一貫した教育プロセスとして、より高い完成度のステージ創出を目指したい。

作曲デザイン・コース「プリプロ・スタディ」

●要旨

短大作曲デザイン・コースの2年次生が、教員や助手の支援を受けながら就職活動や楽曲応募へ向けた制作に取り組む為の課外教育活動として実施している。授業課題の対応は対象外とし、あくまで将来へ向けた活動における楽曲アイデアの昇華や、制作中の作品のブラッシュアップ、レコーディングサポート、音楽活動へのカウンセリングなどに取り組むことを想定している。昨年度の稼働率は、35パーセントであったが、今年度は94パーセントに増加した。

●成果及び達成度

学生にとって、自身の作品を世に出し、採用されるまでのプロセスを体験する貴重な学びの場となった。

本事業は学生に対する実技の現場指導だけではなく、作品を応募する先の情報も確保・提供しており、応募後の報告を義務付けることによって、活動の可視化につながった。この発表を通じて、学生自身が「伝える意識」と「自己表現の課題」を明確にし、「ポピュラーミュージックコンサート」に向けた意識向上に繋がった。

●今後の展望

本事業は、稼働数が上がる、作品の応募数も上がる、キャリアや実績へ（採用・入賞数が上がる）の3段階で成長すると考えられ、第一段階の稼働数については増加したが、応募数を増やし、採用実績を高めることが課題である。

以下の取り組みにより、学生の積極的な姿勢を高め応募活動へ繋げる。

- ・卒業生の授業内招聘（テーマ：在学中～現在の職業作曲家になるまでのプロセス）。
- ・作曲事務所や大手ゲーム会社の授業内招聘により、応募への積極的な姿勢を指導。
- ・募集案件など情報収集の継続とその蓄積。
- ・2026年度からは音楽クリエイター専攻と共同で行い、最終的に移行する。

プロダクション「大音ラボ」の運営

●要旨

大学と社会を繋ぎ、学生の実践的な学びと経験の場となることを期し、学生を積極的に起用する音楽プロダクションを学内で運営、展開する事業である。

この事業は学生が将来、音楽分野で力強く活躍するために、学生のうちから企業等を相手とした本格的な活動の場を提供する。そこにおいて学生が自らの音楽力を活用して働くことを経験する中で、その喜びと難しさを知り、キャリア形成の必要性に対する理解を深め、また、卒業後の自身のイメージを具体化することを目的とする。

●成果及び達成度

以下4つの事業を展開し、学生がその音楽の感性と技術をもって実社会と接する機会を創出した。

〔楽曲等制作事業〕

以下、12のプロジェクトを行った。参加した在学生数は以下の通り（卒業生等は除く）。

▼チェジュ航空CM音楽制作（卒業生のみ）▼静岡福祉大学サウンドロゴ制作（3人）▼東海道シグマCM音楽制作（3人）▼悪質商法対策事業サウンドロゴ制作（3人）▼KOYAMA CMリメイク（卒業生のみ）▼静岡科学館る・く・るCM音楽制作（3人）▼映画「小春日和」楽曲制作（1人）▼AVANTIAサウンドロゴ制作（1人）▼ドラマ「シャドウワーク」楽曲制作（1人）▼山田工務店CMリメイク（卒業生のみ）▼平安祭典CM音楽制作（1人）▼SHIDA SHIKO CM音楽制作（3人）

〔演奏事業〕

関西テレビ放送株式会社からの依頼で、高齢者施設向けに配信される番組「こぞって」内の音楽コーナーのための演奏収録を計3回おこなった。

参加した在学生は声楽4人、ピアノ4人。

〔著作権管理事業〕

（株）日音より印税の支払いがあり、著作者の学生及び卒業生へ分配を行った。

〔配信事業〕

2025年度内に、当該年度の専攻コンペのコンピレーションアルバムを制作した。

●今後の展望

さらに多くの学生が大音ラボに関わるができるように、獲得する案件の増加を期して、この仕組みについてより多くの企業や人に知っていただくように活動したい。

2025 年度に初めて実施した〔演奏事業〕については利益率が高く、継続して関係企業にアプローチすることで収録のみならず、現場での出張演奏など、新たな進展を図りたい。

【2】国際交流

2025 年度は台湾の国立台北芸術大学音楽学院と提携協定を締結した。

また、以下の2人が海外提携校留学助成金制度の適用を受け、海外の大学で学んだ。

- ・大学4年 弦楽器専攻 フォルクヴァング芸術大学（ドイツ）
- ・大学3年 管楽器専攻 オスナブリュック応用科学大学音楽研究所（ドイツ）

海外提携校から以下の5人の留学生の受け入れを行った。

- ・王立ウェールズ音楽演劇大学（イギリス）2人
（大学 管楽器専攻1人、短大 作曲デザイン・コース1人）
- ・オスナブリュック応用科学大学音楽研究所（ドイツ）3人
（大学 弦楽器専攻2人、大学 ジャズ専攻1人）

【3】学生生活支援・福利厚生

学生相談室を来訪した学生は延べ2,968人であり、前年度の2,201人より大幅に増加した。この相談室は授業において支援を必要とする学生が、学内の「居場所」として利用する事例も多く、日頃より心身をリフレッシュできる環境づくりに努めている。また、障がいのある学生の増加に伴い、常駐するインテーカーに対して学生の修学上の支援について助言を求める機会が増えた。2025年度は学生相談室を利用していた学生5人が無事に卒業した。

奨学金に関しては、本学独自の制度である「大阪音楽大学奨学事業財団奨学金」の2025年度新規貸与者数は、大学6人、短大3人であり、合計26人となった。

【4】教員の研究活動

研究委員会を9回（第9回及び第11回は流会）開催した。2025年度に研究助成の第2区分に該当する学術研究、芸術

研究、研究成果公開のうち、芸術研究への申請が1件あり、承認され実施された。『大阪音楽大学研究紀要第六十四号』には、投稿された2本の原稿の査読を行った上で、論文1篇及び研究ノート1篇の掲載を決定し、3月31日にホームページに公開した。

2026年度科学研究費には、大学所属の教員から若手研究1件、研究基盤（C）3件、短期大学部所属の教員から研究基盤（C）1件申請があったが採択はされなかった。研究分担者として専任教員1人が新たに採択された他、専任教員1人が過年度に採択されたテーマによる研究を継続している。研究活動に関わる不正行為のうち、「ねつ造」「改ざん」「盗用」についての研究倫理教育を10月教授会で実施した。公的研究費に関わる不正行為防止の啓発活動として、6月に学長室会議及び事務局会議、教授会、6月に常任理事会で実施した。また研究助成に関する他の規程との整合性をとるため、「大阪音楽大学研究助成規程」及び「大阪音楽大学短期大学部研究助成規程」改定し、研究出張費に関して「演奏会等への出演」を「無報酬に限る」とした。

FD・SD活動の充実

●要旨

FD・SD 総括委員会を8回開催し、2025年度活動案に従い、FDフォーラムの開催、授業改善計画書、教員相互の授業見学、成績分布状況の把握と検証、授業アンケートの実施とその自由記述の分析と検証、年2回のFD・SD 学内講習会の実施と学外FD・SD 研修会への参加について検討を重ねた。

●成果及び達成度

7月の教授会終了後に実施した。教員相互の授業見学は29件で17人の教員が行った。成績分布状況の把握は、2024年度成績分布状況データを基に行い、学修成果の点検・評価及び内部質保証の認識の共有に努めた。また、「授業アンケート」の自由記述の分析および検証を行い、その結果を全学的にも共有するため、教授会においても周知した。外部講師による学内FD・SD 研修会は2回開催し、第1回(2024年9月)は「LGBTQ+とダイバーシティ～多様な人々がもつ差異を彩に変えていく社会に～」第2回(2025年2月)は「ルーブリックの導入と活用」というテーマで実施した。参加者数は第1回が55人、第2回が44人であった。

外部FD・SD 研修会に関しては、徳島大学で開催された「SPODフォーラム2025」への参加があった。

●今後の展望

各部会で実施したFD活動の発表と質疑応答を行うFDフォーラムは、書面だけでは分からないさまざまな活動を知る機会となるため、今後も報告書の作成と共に開催する。成績分布状況の把握・検証を引き続き行い、成績評価方法等の改善につなげる。また、学修成果の把握・評価の方法についても、検討を重ねる。授業アンケートの自由記述の分析と検証は、授業の質向上への取り組みとして極めて有効であるため、今後も継続して取り組んでいく。FD・SD 研修会は非常勤教員も含め広く認知されてきたが、今後も厳選されたテーマを取り上げ、更に参加を促し、研修がより効果的なものとなるようにする。新任教員の研修制度についてはより一層の内容の充実を図る。

【5】自己点検・評価体制

本学の自己点検・評価は、自己点検・評価統括委員会を中心として大学・短大の各教育課程における各種の運営会議や運営委員会において不断に実施している。具体的には、成績分布状況、学生満足度調査、各種入学者選抜、授業アンケート、卒業時アンケートの点検・評価を行っている。自己点検・評価の結果は教育の向上に向けた取り組みに反映するように提案している。2025年度は、「第4期評価システム」に沿って2025年5月1日現在の『大阪音楽大学自己点検・評価報告書』および『大阪音楽大学短期大学部自己点検・評価報告書』を作成した（2026年3月19日に本法人ウェブサイト公表）。その結果として、第4期評価システムに対応した内部質保証の新しい体制の構築が必要であることが浮き彫りとなった。

自己点検・評価

●要旨

自己点検・評価統括委員会を中心として大学・短大の各教育課程における各種の運営会議や運営委員会において不断を実施している。具体的には、成績分布状況、学生満足度調査、各種入学者選抜、授業アンケート、卒業時アンケートの点検・評価を行っている。自己点検・評価の結果を、教育の向上に向けた取り組みに反映するように内部質保証推進会議に提案している。また規程として整備されているものの、本学の実情に即しているかどうかの点検を行い、内部質保証推進会議に改善を提案する。

●成果及び達成度

2025 年度に自己点検・評価書を作成するにあたり、第 4 期認証評価の評価基準および指定されるエビデンスに沿って、フォーマットを作成し、各規準の対応状況を分かりやすくした。

規程の点検・評価を行い、大学院に関する規程、また「大阪音楽大学専任教員採用選考基準」「大阪音楽大学短期大学部専任教員採用選考基準」および「大阪音楽大学専任教員昇格基準」「大阪音楽大学短期大学部専任教員昇格基準」において、実務家教員や嘱託専任について対応できていないことが分かった。

●今後の展望

来年度からの新しい内部質保証体制の方針にもとづき、IR室と連携し、自己点検・評価を行い、その内容を内部質保証推進会議に報告していきたい。

学生による授業アンケート

●要旨

全学的な自己点検・評価活動の一つとして、ポータルシステムを利用してウェブで「学生による授業アンケート」を実施した。アンケートの回答率を高めるために、授業時間内に教員が指示することを徹底し、非常勤教員に対しては部会から告知した。

●成果及び達成度

大学・短大・大学院の全教育課程における前期の授業アンケートの回答率は 60.01 パーセント、後期は 50.03 パーセントであった。昨年度に比べて、前期はほぼ同じであったのに対して、後期の回答率が約 5 パーセント下がった。

●今後の展望

ポータルシステムを利用することによって、授業内に指示しても回答率が低い傾向にある。回答率を上げ、自由記述も積極的に行うよう今後改善方策を検討する。

授業改善計画書

●要旨

昨年度後期の「学生による授業アンケート」の集計結果をもとに、専任教員が担当する全科目（リレー授業等の一部科目を除く）と一部の非常勤教員が担当する科目について授業改善計画書を作成した。これら個別の授業改善計画書はまとめて、クラウドで同計画書を執筆した全教員に閲覧可能にした。

●成果及び達成度

授業改善計画書の目的の一つは、各教員が授業の内容と実施方法を着実に振り返ることによって、改善への「気づき」をもたらすことである。また、同計画書をまとめ、各教員が閲覧することによって、他教員の授業の状況や「気づき」を参照しやすくなり、それを各自の授業実践に反映させることを通じて、本学全体の教育の質向上に役立つことが期待される。なお、集成した授業改善計画書は、「学生による授業アンケート」に対するフィードバックとして、学生・教職員が自由に閲覧できるように、附属図書館、学生支援センター、教職員集会室等に配備した。

●今後の展望

今後も前年度後期の「学生による授業アンケート」の集計結果を基にした授業改善計画書の作成を継続する。現在、全専任教員に授業改善計画書の作成を義務付けているが、専任嘱託教員にも義務付け、非常勤教員にも作成を促し、より充実したものにする。

【6】音楽メディアセンター 付属図書館

本学学生の図書館利用は、前年度と比較した場合、3.3パーセント以上の向上が認められた。利用率をさらに向上させる取り組みとして、毎月企画展示、イベントの実施を行った。これらの活動を経て、2026年3月31日現在の資料数は図書・楽譜を合わせて約116,612点、視聴覚資料は約55,002点となった。また、11月10日～23日に開催された図書館総合展にオンラインで参加。1月26日の音楽図書館協議会のオンライン研修会に参加した。

【7】音楽メディアセンター 楽器資料館

楽器資料館は西洋楽器・和楽器展示室（K号館3階フロア及び一部2階図書館入口前）、民族楽器展示室（D号館401教室）の2つの展示室に分かれての運用となっている。前年度に引き続き、大学のホームページに開館日時を公開し、学内者は予約不要で、学外者にはインターネット経由での来館予約を行っている。学内の研究や授業で利用されているほか、外部の関係者や研究者も来館している。展示物については、要請があれば外部に短期貸し出しを行っており、楽器資料館としての役割を果たしている。

A号館1階の「第2応接室」内に設置している本学の創立者ゆかりの永井文庫や関西洋楽史資料も、重要な資料として活用されている。

今後も引き続き、資料館の公開、研究での活用や授業などでの利用等をおこなっていく。

【8】付属音楽幼稚園

・園児の在籍状況について

5月1日付けで198人が在籍（3歳児3クラス67人、4歳児3クラス57人、5歳児3クラス74人）、3月にはそのうち5歳児72人が卒園した。

・2歳児親子教室「りんごクラブ」について

2025年度は、前期（4月～9月）、後期（11月～1月）に募集し、前期24組、後期19組の申込があった。

2026年度入園児（3歳児）44人のうち16人が「りんごクラブ」より入園する結果となっている。

・音楽教室「クレフ」（希望者対象の課外レッスン ピアノ・ヴァイオリン・マリンバの3科目）は6月1日付けで66人が在籍し、園内における対象園児（年中児・年長児）の約33%が受講している。より受講生の獲得を広げるため、2025年度からは年少児も受講対象とした。ただし年少児に関しては、子どもの成長を考慮し、9月からの開始としている。結果、年少児の内、約30%が入会し、園内における対象園児の約40%が受講した。また年少児も希望者にはミレニアムホールでの発表会の場を設けた。

少人数制の音楽指導「Poco」

●要旨

「みんなで楽しむ音楽」を中心とした保育を目的とした事業であり、年中・年長児を対象に、キーボード、ヴァイオリン、マリンバ（打楽器）を使って少人数グループに分かれて専門講師の先生と一緒に活動するものである。

2025年度も従来通りレッスン室での指導（1クラス2～3人程度）で行なった。

●成果及び達成度

Poco ではヴァイオリン、キーボード、マリンバ（打楽器）の 3 種類を使用している。

園児はその年齢や環境による理由からそれらの楽器を日常的に触れる機会は少なく、習い事として経験する子どもに関してもそれらの 1 種類であることがほとんどであるため、保育の中で経験できることは保護者にとっても満足
のいく活動の 1 つと言える。

活動を通して技術の向上を目的とするのではなく、友だちと共に行う楽しさを感じたり、講師の援助により「できた！」という体験を通して達成感を味わうことをねらいとした。

幼児期のそのような体験の積み重ねが個々の自信の素地となるため様々な活動に活かすことができた。また前年度に引き続き、保護者が参観する日を設けた。

●今後の展望

音楽幼稚園の特色となる事業であるが、少子化もすみ園児の減少傾向にある中で、講師1人に対する園児数も年々減少していた。今後の園運営を考え、大学との協議の結果、2025年度末をもってこの事業を終了することとした。

B 社会連携活動事業

【1】アドミッション事業

大学及び短大で総合型、学校推薦型、一般、後期総合型の 4 種類の入学者選抜と、大学院、大学専攻科、大学 3 年次編入、短大専攻科でもそれぞれ入学者選抜を実施し、すべての入学者選抜を適正に終えることができた。入試
広報関連としては、年間を通してオープンキャンパスや体験レッスン、セミナー、ワークショップや、外部施設での無料体験レッスン、留学生獲得のための相談会などの各種イベントを開催した。

オープンキャンパスの開催

●要旨

各専攻・コースの教育内容や指導者、施設等の教育環境の充実、入学者選抜制度、在学生の状況等重要な情報を伝える機会として、「トライアルレッスン」（本学教員による無料体験レッスン）と合わせて、「オープンキャンパス」を実施する。

●成果及び達成度

年 3 回実施し、6 月は 227 組、11 月は 231 組、3 月は 157 組の参加があり、昨年度の 1 回あたりの平均組数（155 組）を大幅に上回った。11 月実施分からは、オープンキャンパス検討委員会の発足に伴い、運営を事務局全体で担う体制とし、キャリア相談の体験や入学後の教育内容に関する相談など、コンテンツの拡充を図ることができた。
また、「学食体験」に加え、3 月実施分からはヤマハによる「防音相談・調律体験・リペア体験」や、株式会社 cafetorium による「カフェスペースの設置」を実施した。これにより、コンテンツの充実に加え、企業との連携を通じた本学
オープンキャンパスの広報活動を推進することができた。

●今後の展望

参加者数の増加に加え、満足度を高め志願につなげる機会とするため、「他部門との連携強化」「外部団体との連携強化」「各イベントの質の向上」を今後の課題とする。

また、参加者が本学の教育およびサポート体制を理解できる内容を積極的に取り入れ、理解の深化を図るとともに、集客面においては既存の方法に加え、新たな手法にも取り組む。さらに、オープンキャンパスへの来場で終わらせるのではなく、その後の別イベントへの参加促進や、資料送付、随時の情報提供などを通じて、アフターフォローの充実を図る。

専攻・コースイベント

●要旨

専攻・コース別にイベントや出張授業等の入試広報活動を展開する。

今年度は新たに「音楽クリエイター専攻イベント」「シンガーソングライティング・イベント」「DAION JAZZ ワークショップ」を追加する。

「音楽クリエイター専攻イベント」は 2026 年度に開設する「音楽クリエイター専攻」の広報として、イベントを実施し、あらゆるジャンルのクリエイターを目指す志願者獲得につなげる。

「シンガーソングライティング・イベント」は「ポピュラーエンターテインメント専攻・コース」の志願者獲得のため、シンガーソングライティングに関するイベントを行う。

「DAION JAZZ ワークショップ」は中高生による本学オリジナルのビッグバンドを結成し、本学教員と在学生による全 6 回のワークショップを行い、12 月にミレニアムホールにて成果発表の LIVE を行う。

●成果及び達成度

過年度に引続き、声楽専攻・コースによる「中高生のためのオペラセミナー」、ピアノ専攻・コースによる「ピアノ講座」、管弦打専攻・コースによる「吹奏楽フェスティバル」、ポピュラーエンターテインメント専攻・コースによる「ポピュラーミュージックフェスティバル」、ミュージカル・コースによる「高校生のためのミュージカルワークショップ」、ミュージックビジネス専攻と音響照明コースによる「専攻独自のオープンキャンパス」、演奏系の専攻・コースによる「楽器店での出張レッスン」等のイベントを行った。

また今年度新たに追加した「音楽クリエイター専攻イベント」についてはクリエイターをめざす受験生を対象に、「作曲体験」、「入試対策」、「サウンドクリエイターによるトークライブ」の内容を盛り込んだイベントを数回実施し、多数の参加者を集客した。

「シンガーソングライティング・イベント」については現在の楽曲制作シーンで主流な方法である「コライトセッション」体験と「弾き語り講座」を実施し、シンガーソングライター志望の志願者獲得に努めた。

「DAION JAZZ ワークショップ」についてはジャズに興味を持つ中高生の参加により、全 6 回のワークショップとビッグバンドの成果発表会を実施した。このように年間を通じて多数の入試広報活動を展開することにより、志願者層に本学の魅力を伝える機会となった。

●今後の展望

各専攻・コースの充実した教育内容や指導教員、施設等の教育環境、在学生の状況を伝える重要な機会となるよう来年度以降も継続して実施する。

留学生獲得プロジェクト

●要旨

留学生獲得に向け、留学生向け音楽進学塾と連携して、本学の教職員が中国に赴き音楽系大学と高等学校にて、公開レッスンと学校説明を行う。また国内においても、提携先の進学塾において本学の学校説明会を行う。

●成果及び達成度

2025 年 5 月に本学教職員 4 人が、中国の音楽系大学と高等学校に赴き、クラリネット、ピアノ、電子オルガンの公開レッスンと学校説明を行った。また国内でも留学生向け音楽進学塾において学校説明会を 2 回実施した。

これにより日本への留学を目指す受験生に対して、本学を認知させる機会となった。

●今後の展望

留学生志願者獲得は、政治的な情勢に影響を受けるが、それに左右されことなく一定の広報活動は継続させていく。

【2】対社会事業

＜社会連携事業＞

連携支援センターでは、大学の教育研究活動の一端を地域社会に還元することを目的として、地方自治体・公共団体・自治会・公民館・ボランティア団体・一般企業等さまざまな分野の団体と連携を結び社会貢献活動を実施している。当センターの社会連携関係事業は、大きく分けて官学連携事業、公開講座、依頼演奏に分類することができる。

【地域社会との連携】

- ① 豊中市が主催の「第10回豊中音楽コンクール」について、6月に予選、7月に本選を行った。前回から、若手の登竜門として高校生限定のコンクールとなった。運営に関しては大きなトラブルもなく、参加者、関係者から体調不良者も出ることなく実施できた。また、豊中中央ライオンズクラブ及び豊中市、豊中市教育委員会との共催で「第12回豊中子ども音楽フェスティバル」を滞りなく実施した。前半の内容を大きく変更し、本学の学生の出演を大幅に増やすことが出来た。
- ② 寝屋川市との包括連携協定により、市主催事業の「アルカスピアノコンクール」へ審査員紹介を行った。

【公開講座】

豊中市、高槻市、羽曳野市等、自治体と連携協力して提携講座の実施や講師派遣等を行った。

- ① 豊中市：中央公民館との共催による大学開放講座「音楽・心の旅」
- ② 高槻市：けやきの森市民大学 大阪音楽大学公開講座「音楽の宝石箱」
- ③ 羽曳野市：はびきの市民大学 講座への講師紹介

【依頼演奏】

地方自治体、公共団体、公益法人、ボランティア団体、学校、企業及び個人等から多数の演奏依頼を受け、一定の演奏水準を保ちつつ卒業生支援の一環として、演奏者の手配・派遣・紹介等マネジメント業務を行っている。これは卒業生の活躍の場を確保するとともに大学の広報活動の一翼を担った事業でもある。

また、近年は在学生でも特に優秀な個人やグループに演奏を依頼し、実地研修の場として活用している。年間複数回開催している企業、団体は、マツシマホールディングス、JCHO 大阪病院など。

【その他】

ビュッフェランポン協力のもと、中高生対象にワークショップ（ユーフォニアム）を開催した。
また、ビュッフェランポンが取扱う楽器での試奏会や、本学教員による演奏など、産学連携要素が含まれる。

＜学校間連携事業＞

- ① 学校法人常翔学園と学校法人大阪音楽大学が連携協力に関する協定を締結し、連携協定記念プロジェクトの一環として、毎月第2土曜日にロビー・コンサートを開催した。
- ② 関西学院大学と大阪音楽大学の単位互換に関する協定に基づき、本学と関西学院大学の間で単位互換を実施した。
- ③ 学校法人大阪成蹊学園と学校法人大阪音楽大学が連携協力に関する協定に基づき、大阪成蹊女子高等学校オープンスクールへの講師・奏者の派遣や正課レッスン、ミュージカルワークショップを滞りなく実施した。
- ④ 奈良県立高円芸術高等学校との教育交流に関する連携協定

相互の教育交流を通じて高校生の視野を広げ、進路に対する意識や学習意欲高める活動の一環として、正課授業

(吹奏楽・フルートレッスン・ヴァイオリンレッスン・探求の時間)に年間通して本学教員を派遣した。

また、本学と高円芸術高等学校との共催イベントとして、合唱講習会や管楽器講習会を開催した。

⑤ 京都市立京都堀川高等学校との高大連携事業

京都堀川音楽高等学校の音楽教育・学習の充実を図る為、声楽専攻生徒（全学年）を対象に、声楽のディクシオン授業を提供した。また、新たな試みとして打楽器特別授業を開催した。

⑥ 関西文化芸術高等学校との高大連携事業

本学と関西文化芸術高校が協力して教育活動を行うことで、多様な学力や能力の向上を目指し、学習の相互関係を図ることを目的としている。

2025年7月16日（水） 大学見学 & DAW 体験講座（川崎泰弘）

2025年11月20日（木） ジャズ特別授業（鈴木孝紀）

DAION 座ワークショップ&コンサート&レッスン

●要旨

DAION ミュージカル研究会会員が中心となり、外部団体から依頼のある「ワークショップ」や「コンサート」を実施する。広く DAION 座の存在を周知し、将来、大阪発の創作ミュージカルを上演する際には、芸術面だけでなく、経済的な成功も目指し本学の名声をも高めることに繋げる。上演に備え、講師を招き、DAION ミュージカル研究会会員らの技術を高めるためのレッスンを有償で行い、運営費の一部に充当する等収支バランスを考えた事業展開を行っている。

●成果及び達成度

通常実施しているレッスン、ワークショップ等を行った。また、外部団体から依頼のあったワークショップやイベントなどにも参加をした。事業等の詳細は以下の通り。

- ・ DAION座 夏のワークショップ（延べ参加人数：学生9人）

2025年8月25日（月）

- ・ レッスン

2025年4月～2026年3月実施（3月はなし）

DAION ミュージカル研究会会員らの技術を高める為、講師を招きほぼ毎月実施。

- ・ 公演名：フェニーチェ堺DAIONミュージカル公演「ガラスの戦士」

日程：2026年3月18日（水）17:00

会場：フェニーチェ堺 大ホール

出演者：教員2人、助手1人、卒業生1人、学生29人

●今後の展望

DAION座の座員およびパートナー俳優が中心となり、外部団体から依頼のある「ワークショップ」や「コンサート」を実施。またDAION座メンバー及び選抜学生による第2回DAION座公演（ソング&ダンスコンサート）を行う。会場はミレニアムホールを予定。

ミュージッククリエーション専攻卒業作品発表会

●要旨

2026年2月15日（日）、ミレニアムホールにて「MUSIC CREATION AWARDS 2025」を開催した。

卒業年次の当該専攻生のうち、出演を希望した学生7人が、各自で制作した「セルフプロデュースアルバム」をプレゼンテーション（歌唱、演奏等）した。内容はオーケストラ、バンドミュージックなど多岐に渡った。

映画監督の中野量太氏、他4人の審査員により、5つの賞を選定・表彰した。また、音楽関連企業から12人を招

待した。公演終了後は学生、審査員、招待した音楽関連企業の方、および教職員にて交流会を行った。

●成果及び達成度

出演学生にとっては、大学での学びの成果を発表して世に問う、意義ある機会となっている。また、自身の音楽と社会との接点を知るケーススタディとして、卒業後、更に活躍するための重要な体験を与えることができている。

審査員や招待鑑賞者（音楽関連企業の方）、および将来の志願者層を含む社会全体に対しては、当該専攻における学びの幅広さと、深さを知っていただく良い機会になっている。また、交流会においては各立場間の交流を深めることに成功しており、当該専攻を取り巻く様々な環境での好循環を生む場として有効に機能している。

●今後の展望

当該専攻の卒業年次生のための重要な成長の機会、および成果発表の機会としてキャリア支援の観点から有効である。また、本学と音楽関連企業をはじめとする社会全体とのつながりの場としての価値も高いため、専攻教員によるブラッシュアップを加えながら、Cr 専攻の最終学年が卒業する年次まで継続して実施する。

サウンドスクール

●要旨

サウンドスクール事業は、豊中市との包括連携協定に基づき、豊中市教育委員会と連携して「音楽あふれる学校園づくり」をテーマに、2006 年から事業を展開。主に豊中市立のこども園・小学校・中学校へ、授業支援、出張演奏、クラブ活動支援、伝統音楽の普及といった活動を実施している。

実施件数は下記の通り。

実施件数：110 件（こども園 12 件、小学校 76 件、中学校 19 件、義務教育学校 3 件）

実施日数：121 日（こども園 12 日、小学校 76 日、中学校 30 日、義務教育学校 3 日）

派遣人数：延べ 824 人 ※派遣者は学生中心だが卒業生や教員を含む場合もある。

●成果及び達成度

2025 年度は前年度にも増して多くの申込みがあった。

中学校においては吹奏楽楽器別講習会の申込みも多数見受けられた。

[授業等支援活動]

（指導）合唱指導、吹奏楽講習会

（鑑賞）金管五重奏、弦楽四重奏、木管五重奏、邦楽アンサンブル、リコーダーアンサンブル、混成アンサンブル、声楽アンサンブル、打楽器アンサンブルを実施。

生の音楽を聴く機会が減少していたこどもたちに生きた演奏を届けることができ、児童、教職員ともに好評だった。

実施したすべての学校より、教育活動への効果について、前年度同様、良い評価を頂いた。

●今後の展望

サウンドスクールの教育効果を周知し、今年度の応募件数を維持する。

また、SNS などを活用し、サウンドスクール活動を随時配信する。

部活動の地域移行をにらみ中学校の楽器別指導など、吹奏楽の指導に関しても積極的に取り組んでいく。

豊中音楽コンクール

●要旨

豊中音楽コンクールは、2015 年度から豊中市と共催で、2019 年度より豊中市主催として、「次代を担う優れた演奏家を発掘・育成し、音楽文化の振興を図ることを目的」として設立されたクラシック音楽コンクールで、本学は 2019 年度より運営を委託されている。6 月 22 日（日）に予選、7 月 6 日（日）にザ・カレッジ・オペラハウスで本選を行った。今年度より高校生対象となりコンセプトを明確化した。ピアノ、声楽、管楽器、弦楽器の各部門を設

け、定員は各 40 人、審査員は本学教員と学外の著名な演奏家の方々に依頼して行った。上位入賞者は、その年の秋にザ・カレッジ・オペラハウスで開催する「豊中音楽コンクール 受賞者記念コンサート」に出演することができる。また、高校声楽部門入賞者で条件を満たした者（1 人）は、大阪府高等学校音楽教育研究会より「瀧廉太郎記念 全日本高等学校声楽コンクール」の大阪府代表として推薦を受けられる。

●成果及び達成度

ピアノ部門 29 人 声楽部門 31 人 管楽器部門 34 人 弦楽器部門 11 人 合計 105 人

管楽器は大幅増。ピアノ部門および声楽部門は微増。弦楽器は数を減らしている。
周知徹底を行った為、コンクールとしての知名度は着実に上がっている。

●今後の展望

同コンクールは、豊中市主催のもと、2026 年 6 月 21 日に予選、7 月 5 日（日）に本選を開催することが決定している。審査員は学外の著名な演奏家の方にも依頼することができたため、全国に開かれた音楽コンクールとして、また、若き才能の持ち主達の登竜門として、地位を確立したい。

豊中こども音楽フェスティバル

●要旨

豊中中央ライオンズクラブ・豊中市・豊中市教育委員会・大阪音楽大学が連携し、9 月下旬に実施する。内容は、豊中市にゆかりのある中学生・高校生・大学生による演奏。2024 年度より小さなお子様も楽しんでいただけるよう、楽器紹介なども盛り込んだプログラムになっている。

音楽を通じて子どもたちの感性を育むことを目的に毎年実施している。

●成果及び達成度

本学と豊中市内中学・高等学校との連携の強化と、「音楽あふれるまち・とよなか」を市民の皆様へアピールすることが出来た。また、来場者の多くが子供連れであり、沢山の子供達が生音に触れる機会となった。

●今後の展望

今後はサウンドスクールで演奏している本学の学生や、小編成のグループなど、大編成の吹奏楽に限らず、様々な音楽ジャンルを取り入れ、文化芸術活動に取り組む子どもたちの発表の場として、子どもたちの目標となる演奏会をめざし、また、舞台芸術の鑑賞の機会として浸透するよう運営する。

【3】オペラハウス事業

本格的なオペラ公演のできるホールとして建設されたザ・カレッジ・オペラハウスは、「新音楽、新歌劇の発生地足らん」という建学の精神に謳われている創立者の大志を実現すべく、これまで多数のオペラ公演を行い、関西、否日本有数のオペラ発生地として、文化庁芸術祭において「芸術祭大賞」を 3 度受賞し、モービル音楽賞の本賞や三菱UFJ 信託音楽賞の本賞、佐川吉男音楽賞を受賞するなど、創立者の夢を着々と実現するとともに、社会からも高い評価を得てきた。

本学の創立 100 周年目に当たる 2015 年度に、「創立 100 周年記念オペラ」と銘打って、ヴェルディ唯一の喜劇作品と言えるオペラ「ファルスタッフ」を上演し、これを契機にオペラハウス主催オペラ公演の在り方を見直し、2017 年度から井原広樹、栗國淳、岩田達宗の 3 人の客員教授を年替わりで演出に起用し、3 年にわたる「ディレクターズチョイス」シリーズとして主催オペラ公演を行うことを決定した。2017 年度は井原広樹演出、牧村邦彦指揮で、モーツァルトの《偽の女庭師》を上演、2018 年度は栗國淳演出、森香織指揮でメノッティの《テレフォン》《泥棒とオールドミス》を上演、そして、同シリーズの掉尾を飾る 2019 年度は岩田達宗演出、牧村邦彦指揮でベッリーニの《カ

プレーティとモンテッキ》を上演し、いずれも高い評価を得た。2020 年度は、2014 年に上演して文化庁芸術祭で「芸術祭大賞」を受賞した「鬼娘恋首引」と「カーリユー・リヴァー」の 2 作品を井原広樹演出、牧村邦彦指揮でキャストや演出の一部に手を入れて上演する予定であったが、2020 年から世界的に猛威を振るっている新型コロナウイルスの影響で中止となった。

その後も、コロナ禍の影響が続き、環境的にも、経済的にも厳しい状況の中で主催オペラ公演は一旦休止を決定した。但し、オペラの灯をともし続ける重要性和使命を念頭に、セミステージ形式での実施も含めて検討し、その結果、2021 年度は、オペラハウス管弦楽団定期演奏会のプログラムの中で新たな形でのコンサート・オペラとしてヴォルフ＝フェラーリの「スザンナの秘密」を井原広樹演出、牧村邦彦指揮で上演した。キャストも少なく舞台上の道具も簡易ではあったが大変見ごたえのある公演で好評を得ることができた。2022 年度は、関西初演となるハイドンのオペラ「無人島」を上演した。井原広樹の知恵を絞った演出、牧村邦彦によるオペラを知悉した熟練の棒で、本学出身の中堅歌手たちの魅力を存分に引き出し、セミステージの形式とは思えない舞台を作り上げることができた。2023 年度は、モーツァルト作曲歌劇「劇場支配人」とサリエリ作曲歌劇「はじめに音楽それから言葉」を、両曲の作曲の経緯から掘り下げ上演した。2024 年度は、ハイドン・シリーズの第二弾として、ハイドン作曲歌劇「薬剤師」を取り上げた(ノーカット原語上演日本初演)。本学教員・牧村邦彦指揮するザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団の軽快かつまろやかさを併せ持った響きで序曲がスタートし、4 人の歌手が、声楽的、演劇的に、それぞれの役の特性を的確に表現し、その結果、ハイドンのオペラの本質的な価値、音楽の素晴らしさを実証する稀有な本番となった。

2025 年度は、ハイドン・シリーズの第三弾として、ハイドン作曲歌劇「月の世界」を取り上げた(ノーカット原語上演日本初演)。本作は 1777 年にエステルハージ家の祝祭で初演され、その後自筆譜が分散するなど上演機会の極めて限られた稀少作であり、改訂版が 1958 年に出版されて以降ようやく全曲上演が可能となった歴史をもつ。今回の上演は、本学教員・井原広樹の演出により、演技エリアを大きく客席に迫り出し、観客との距離を縮めることで、エステルハーザ上演時の音響と密度感を現代の環境で再現することを試みた。またホリゾンに映像を投影し、特に月世界へ向かうシーンでは視覚効果が物語と一体化し、臨場感と物語性を高めた舞台空間を形成した。出演者は大阪音楽大学の教員・卒業生・在学生から構成され、大学が蓄積してきた教育成果と人材育成の層の厚さを明確に示すものとなった。とりわけ 新国立劇場オペラ研修所修了生である榊貴志(ボナフェーデ)と野口真瑚(フラミーニア)の存在感は顕著であり、本学が全国レベルで通用する声楽家を継続的に輩出していることを証明した。本公演は、学術研究・舞台創造・人材育成を同時に実現する、大学ならではの高い公共性を備えた事業として結実した。栗辻聡指揮による小編成ながら躍動感ある序曲に始まり、清原邦仁(エックリーティコ)が軽妙なキャラクターを確立、榊貴志(ボナフェーデ)は威厳と滑稽味の両面を豊かに演じ分けた。野口真瑚(フラミーニア)は柔軟で透明感ある歌唱で作品の核を支え、梨谷桃子(クラリーチェ)、大賀真理子(エルネスト)、谷口耕平(チェッコ)、村岡瞳(ボナフェーデの愛人)もそれぞれの役柄を声楽的・演劇的に的確に体現した。7 人の歌手が膨大なレチタティーヴォとアリアを通し、ハイドンのオペラの真価を明確に示した点は、本学の教育と舞台実践が高度に融合した成果と言える。

Concert' Opera シリーズ 過去最多の集客を達成し、観客の反応は非常に熱かった。700 席規模の専用劇場がもたらす聴きやすい環境で、無理のない自然な発声や精緻なアンサンブルに対し「歌そのものの魅力を堪能できた」との声が寄せられた。また、チェンバロ梁川夏子の機知に富む音景描写、随所に潜むユーモアによる笑い、映像との高度な融合など、舞台芸術としての完成度が高く評価された。さらに、東京の著名評論家からも「シリーズの学術的意義と上演水準が一段と向上した」との賛辞を頂いた。教育目的の公演でありながら、4,500 円でこれほどの質を実現していることに驚きと感謝の声が上がり、大学の文化的発信拠点としての役割が確かな手応えを伴って示された。

一方、オペラハウスは教育、研究の成果発表の場として、また学校法人として様々な催事の会場として広い用途

にも活用されており、年間催事総数は102件、総入場者数は16,315人、総稼働日数は220日にも及んでいる。

また、付属のオペラハウス管弦楽団は、京阪神地域を中心に3件5回の依頼演奏を実施し、様々な団体のオペラ公演では一翼を担う存在になっている。

2025年度には、「舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演）」を担い、Eブロック（新潟、富山、石川、福井、京都）のうち1府2県で巡回公演事業を実施。C区分（小編成）において、計4校4回の公演とワークショップを開催した。

110周年記念事業

●要旨

本学創立110周年を記念し、吹奏楽作品作曲コンクールと記念演奏会を開催した。

日時：2025年10月12日（日）15時開演

会場：ザ・カレッジ・オペラハウス

（第1部）

創立110周年記念吹奏楽作品作曲コンクール本選

指揮：北野 徹

演奏：大阪音楽大学創立110周年記念吹奏楽団

（第2部）

師に倣う 永井幸次著～来し方八十年～より「永井幸次讃歌」

永井幸次：谷口 耕平

お婆さん：西原 綾子

山葉社長：迎 肇聡

新聞記者：内藤 里美

新聞記者：水口 健次

ナレーション：湯浅 契

オルガン：永井 譲

作曲・指揮：高 昌帥

台 本：橋口 武仁、藪川 直子

演 出：藪川 直子

管 弦 楽：ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団

合 唱：大阪音楽大学創立110周年記念合唱団

合唱指導：里井 宏次

制作統括：北野 徹

●成果及び達成度

吹奏楽作品作曲コンクールにおいては、本学出身の作曲家の才能を発掘・支援し、その成果を広く社会へ、さらには世界へ発信するという目的のもと開催され、高い成果を収めることができた。これにより、本学の教育成果を対外的に示すとともに、次代を担う作曲家の育成・支援という観点においても十分な達成が認められる。

また、「永井幸次讃歌」においては、創立者である永井幸次の音楽人生と理念を主題に、高昌帥の作曲・指揮のもと、ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団、創立110周年記念合唱団、本学ゆかりの出演者が一堂に会し、質の高

い舞台を実現した。さらに、台本・演出を手掛けた橋口武仁および藪川直子により、音楽と語りが融合した表現が展開され、永井幸次の人生と理念を鮮やかかつ感動的に描き出した点は特筆すべき成果である。

これらの取り組みを通じて、本学の教育・創作・演奏の総合力を内外に示すとともに、創立者の精神を現代において具体的に体现することができた。以上より、本事業は芸術的・教育的・社会的意義のいずれにおいても高い達成度を示したと総括できる。

●今後の展望

本記念演奏会の成果を踏まえ、創立者である永井幸次の精神を後世へ確実に継承していく取り組みを一層強化する必要がある。その理念である音楽芸術の普及と人材育成への情熱を軸に、教育内容のさらなる充実と、学生一人ひとりの表現力・創造力の育成を推進していく。

また、弁えのある音楽人の育成に向けては、アンサンブル教育を中核に据え、協働を通じた人間力の涵養に一層注力する。多様な演奏機会や実践的な学びの場を通じて、音楽的技術のみならず、社会性や責任感を兼ね備えた人材の育成を目指す。

さらに、永井幸次の思いを確実に次世代へつなぐため、本学の学生・卒業生・教職員の絆を一層深めるとともに、少子化や経済状況の厳しさといった課題に対しても、全学を挙げて主体的かつ継続的に取り組んでいく。これにより、時代の変化に対応しながらも、本学の理念と伝統を堅持し、持続的な発展を実現していく。

ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団 第66回定期演奏会

●要旨

管弦楽団単独のステージコンサートとして演奏会を開催した。

日時：2025年6月28日（土）17時開演

会場：ザ・カレッジ・オペラハウス

指揮：山下 一史

独奏：加古 彩子（ピアノ）

曲目：W.A. モーツァルト / 歌劇「コジ・ファン・トゥッテ」より序曲

F. ショパン / ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 作品11

R. シューマン / 交響曲 第2番 ハ長調 作品61

●成果及び達成度

プログラム構成の中に協奏曲を取り上げ、独奏者を大学院生の中からオーディションにより選拔し優秀な学生を出演させることで、大学院教育の充実に貢献するという目的を達成させることが出来た。

なお、2023年度より外部コンサートへの挟み込みや他館へのチラシ配架等、広報活動にも力を入れてきたが、当日の来場者数は375人と前年度より100人程度増となった。

●今後の展望

オペラハウス管弦楽団運営方針の改変趣旨に従い、コアメンバーに主催演奏会でステージ演奏の機会を与え、より多くの曲目経験を積ませることでメジャーオーケストラの採用オーディション受験のための実力を付けさせることや、オーディションを通過した優秀な大学院生にオーケストラ伴奏での協奏曲演奏の経験を積ませることを継続していく。また、今後はオペラハウス管弦楽団の特色を生かしたプログラム作りも検討課題とする。

今後の課題である集客については、楽団だけでなく学校法人全体としても広く広報活動に取り組むことが必要であると考えている。

ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団 第67回定期演奏会

●要旨

演奏会形式（セミステージ形式）のオペラとして定期演奏会で開催した。

日時：2025年11月9日（日）14時開演

会場：ザ・カレッジ・オペラハウス

指揮：栗辻 聡

演出：井原 広樹

演目：J. ハイドン／歌劇「月の世界」

キャスト：ブオナフェーデ 梶 貴志

エックリーティコ 清原 邦仁

リゼッタ 村岡 瞳

フラミーニア 野口 真瑚

クラリーチェ 梨谷 桃子

エルネスト 大賀 真理子

チェッコ 谷口 耕平

合唱（8人）

●成果及び達成度

演奏会形式（セミステージ形式）を取ることで、限られた予算枠内でオペラ公演を実現し、比較的上演機会の少ない作品を取り上げるというオペラハウスのコンセプトも達成することが出来た。また、芸術文化振興基金及び、公益財団法人4団体から助成金を得ることが出来た。

●今後の展望

通常のオペラ公演開催は今後も大変困難な状況である。2026年度についてもオペラハウス管弦楽団定期演奏会として後期に演奏会形式のオペラを開催する予定である。

ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団出張演奏

●要旨

オペラ制作団体等外部団体からの依頼により出張演奏を実施し収益事業としている。また、学校法人の広報活動の一端も担っている。

●成果及び達成度

2025年度は4会場5公演の出張演奏を受託し公演を行った。

① 2025年7月2日、5日：英国バーミンガム・ロイヤル・バレエ団

「眠れる森の美女」

指揮／Gavin Sutherland（7/2 フェニーチェ堺 大ホール / 7/5 愛知県芸術劇場大ホール）

② 2025年9月20、21日：関西歌劇団第105回定期公演

「ヴォルフ＝フェラーリ／イル・カンピエッロ」

指揮／牧村 邦彦、演出／井原 広樹（吹田市文化会館メイシアター大ホール）

③ 2025年12月25日：フォレストコンサート with オーケストラ in ザ・シンフォニーホール

指揮／奥村 伸樹（ザ・シンフォニーホール）

●今後の展望

昨今の経済状況等の影響や関西のオペラ等各制作団体の運営環境の変遷により、依頼演奏の受注件数は減少の一端をたどっている。主催者からの依頼に頼るだけでなく、まずは自主公演の回数を増やし演奏を聴く機会を増やす、

営業活動および提案材料の整備等、主体的に活動を行う環境をつくり上げることも、依頼演奏の受注を増やす有効な手立てと考える。また、他楽団と比較して見積が高価であることも、受注に至らない大きな要因のひとつである。楽団の報酬支払規定の見直し、および主催者の要望に応じ金額提示ができるよう柔軟な対応をとることも、今後受注を増やすためには必要な策であるとする。

舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演）

●要旨

全国各地の小学校・中学校を訪問し一流の文化芸術団体による巡回公演を実施し、子供たちに優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供することにより、彼らの発想力やコミュニケーション能力の育成を図り、将来の芸術家の育成や芸術鑑賞能力の向上に繋げることを目的としている。

●成果及び達成度

オペラハウス管弦楽団では、2025 年度小編成の C 区分では 4 校 4 公演の巡回公演を実施した。

《日程、区分、指揮、歌・司会》

◆C 区分

① 10 月 21 日：京都府立丹波支援学校

② 10 月 22 日：氷見市立十三中学校

③ 10 月 23 日：立山町立高野小学校

指揮／牧村 邦彦

歌・司会／古瀬 まきを

④ 1 月 15 日：小松市立蓮代寺小学校

指揮／牧村 邦彦

歌・司会／端山 梨奈

●今後の展望

2024 年度から、オーケストラの統括団体として「日本オーケストラ連盟」が本格的に事業に係るようになり、各団体における採択校数の差や、2025 年度の実施団体採択状況にも影響が感じられる状況になった。

公演団体としての組織運営体制が脆弱であることや、子供を対象とした主体的な公演活動が乏しい昨今の実状では、小編成の C 区分であっても今後の採択については危機的状況にある。

ザ・カレッジ・オペラハウス合唱団出張演奏

●要旨

大学主催オペラへの出演及び依頼演奏会への出張演奏を実施する。

●成果及び達成度

2020 年度以降実質 5 年以上自主公演、大学主催オペラへの出演及び依頼演奏会等すべての演奏活動を実施していない。

●今後の展望

近年、演奏活動を実施しておらず、またマネージャー等の運営スタッフも選任されていないため名目だけの団体となっている。登録メンバーの高齢化も進んでおり、今後合唱団として存続運営するのであれば再編成が必要と思われる。

【4】 付属音楽院

2025 年度の音楽院は収支の黒字化、YouTube のチャンネル登録者数が 1 万人を超え、受講生総数は 950 人と収益も安定してきた。特にリトミックや幼児系のグループレッスンにおいては定着率が格段にあがり、幼児期の裾野が確実に広がったといえる。

2026 年度は在學生への還元、外部幼児教育施設との提携、新規受講生の獲得、広報の充実など、さらなる発展を見据えて運営していく。

音楽院 進学コース充実のための事業

●要旨

進学コースに在籍する受講生への特典（入学お祝い金、音楽院賞、特別給付奨学金の贈呈）を付加価値とし、音楽・芸術系大学を目指す受験生の育成を図る。

●成果及び達成度

〔音楽基礎科目クラスのカリキュラムの再考と改定〕

2026 年度に向けて新チーフを起用し、基礎科目クラスのカリキュラムの内容に充実を求め、再考と改定を行った。

〔音楽基礎科目 土曜日クラスの開講〕

火曜日クラスだけでなく、土曜日クラスを開講。受講希望者が選択できるよう、より通いやすい環境を整えた。

〔入学お祝い金、音楽院賞、特別給付奨学金〕

2025 年度は進学コースに 19 人が在籍し、2026 年 4 月には 6 人が本学に入学した。

入学お祝い金・音楽院賞・特別給付奨学金の獲得者は以下の通りである。

・入学お祝い金

実技クラス[5 万円]：2 人

音楽基礎科目クラス[10 万円]：2 人

実技クラス・音楽基礎科目クラス両受講[20 万円]：2 人

・音楽院賞

実技優秀賞[15 万円]：該当者無

実技奨励賞[8 万円]：2 人

音楽基礎科目優秀賞[10 万円]：該当者無

・特別給付奨学金[20 万円]：該当者無

●今後の展望

各学年 10 人、全学年で 30 人の在籍者を目標に掲げ、入学前に十分な能力を身に付けられるカリキュラムを確立し、より一層入学志願者獲得に貢献したい。

YouTube 事業

●要旨

音楽院講師や本学教員、本学学生を起用し、レッスンやコンサート動画、教員へのインタビュー動画など、様々な人に音楽を身近に感じ、大阪音楽大学の素晴らしさが伝わる動画を制作。音届ラジオと題した podcast 配信も開始し音楽院や大学の広報に力を注いだ。

●成果及び達成度

チャンネル登録者は 10,000 人を超え、YouTube 動画から受講に繋がるケースも確認できている。

●今後の展望

2026 年度はジャンルにとらわれない動画制作、15,000 人の登録者を目標とする。

C 法人組織運営事業

【1】広報活動

本学の取組みに関する効果的な情報発信を目指し、時代に合わせた各種媒体・機会の活用による広報展開を昨年度に引き続き行い、今年度も Web 上での広報展開を強化した。

本法人ホームページや SNS では、視覚に訴えるべく動画や写真を積極的に活用した。

2026 年度大学に新設する音楽クリエイター専攻をはじめ、近年新設したミュージックビジネス専攻（大学）、音響照明コース（短大）、ポピュラーエンターテインメント専攻・コース（大学・短大）などの広報を中心に各専攻・コースの魅力、取り組みを Web 媒体、動画などで広くアピールした。

広告においては、ターゲットを絞った Web 広告の活用を中心に、SNS やネットニュースを活用するなど時代に合わせた広報を展開した。

その他、広報誌を紙面から Web にリニューアルした Web マガジンでは、従来よりも幅広い層へのアプローチを行った。また、リーフレット・チラシなどの紙媒体、イベント出演、マスメディアへの掲出など各種媒体、機会の活用により、本学の社会的認知度と好感度の向上を図り、ブランド力の強化に努めた。

「大学ブランド力」強化を目的とした広報活動

●要旨

本学各専攻・コースの認知度及びイメージ向上を図る広報活動を通じ、建学の精神、教育理念を社会に発信し、本学の存在感を高めブランド力強化に結び付ける。

●成果及び達成度

昨年度に引き続き、広報媒体や宣伝機会ごとの特性に応じた多角的な情報発信に努めた。今年度も Web 上での広報展開に力を入れるべく、SNS や Web 広告を中心とした広報展開、広報誌を紙面から Web にリニューアルした Web マガジンの活用、ニュースリリースの Web 媒体への配信など、Web 上での情報発信を積極的に行い、本学ホームページへの流入を促すとともに、より本学に関心のある層を流入させることへと繋げた。また、2026 年度大学に新設する音楽クリエイター専攻をはじめ、近年新設したミュージックビジネス専攻（大学）、音響照明コース（短大）、ポピュラーエンターテインメント専攻・コース（大学・短大）などの広報を通して、従来の層よりも幅広い層からの反応を得ることができ、歴史と伝統を尊重しながらも、時代の変化に対応する本学の姿を広く社会に印象付けることができた。

●今後の展望

様々な機会や媒体を活用して、本学の新たな取り組み及び各専攻・コースや教員の魅力を社会に発信し、創立以来110年を超える歴史と伝統の上に新たな大学・短大のブランドを構築し、入試広報にも繋げていくものとする。

【2】施設・設備

施設・設備の適切な維持保全を計画的に進め、主に省エネ・老朽化対策に関する更新工事等を実施した。情報システム関係では、学務系システムの再構築を実施した。

既存施設設備のリニューアル工事

●要旨

既存施設設備に対する経年劣化対策を順次行うことで施設設備の維持・充実を図った。並行して新たな楽器や音楽機材等の導入を進めることで、教育環境の充実にも取り組んだ。

●成果及び達成度

実施した主な改修及び整備更新は、以下のとおりである。

- ・ A 号館 301 教室のプロジェクター更新
- ・ A 号館印刷室の製本機更新
- ・ B 号館 205 教室の AV 設備更新
- ・ B 号館 401 教室のプロジェクター更新
- ・ H 館屋上防水・外壁塗装
- ・ L 号館（オペラハウス）空調インバーター制御盤の更新
- ・ N 号館 2 階の空調更新
- ・ P 号館受変電設備（キュービクル）の更新
- ・ 豊南寮食堂棟の空調更新
- ・ 楽器・音楽機材の更新・購入（ピアノ、バス・トロンボーン、電子オルガン、音響卓等）
- ・ 附属幼稚園受変電設備（キュービクル）の更新
- ・ 附属幼稚園園児送迎用マイクロバスの更新

●今後の展望

財政状況を踏まえ、中長期的な保全計画を立てて財政負担の平準化を図りつつ、施設設備の維持保全及び新たな需要を見据えた教育環境の整備・充実に努める。

業務システムの再構築

●要旨

業務システムのソフトウェアサポート終了に対応するため、2025 年 8 月教務システムとポータルシステムの再構築を実施した。

●成果及び達成度

再構築の方針である「個別開発は行わず標準パッケージソフトウェアに業務を合わせて運用」に則り業務改善、コスト削減を実現した。

●今後の展望

就職・入試業務システムの再構築を実施する。今年度同様業務改善、コスト削減を実現させる。

【3】法人の運営

改正私立学校法（令和 7 年 4 月 1 日施行）への対応を軸として、ガバナンス体制の見直しと経営基盤の整備を進めた。従来の理事会および評議員会は解散し、改正法に対応した寄付行為に基づき、新たに理事、監事、評議員および会計監査人を選任した。これにより、理事 10 人、監事 2 人、評議員 11 人、会計監査人 1 人の体制で法人運営を開始し、意思決定および監督の枠組みを新たな制度に沿って整理した。

また、短期大学部においては、教育体制の見直しの一環として、「作曲デザイン・コース」の 2026 年度以降の学生募集停止を踏まえ、教育課程の段階的廃止を決定した。これに伴い、2026 年度以降は短期大学部全体の入学定員を 100 人から 50 人へ、収容定員を 200 人から 100 人へと見直す内容について、文部科学省への届出を行った。あわせて、教育資源の再配分や運営体制の適正化を図ることとした。

さらに、現行の中期事業計画が 2025 年度をもって終了することから、2026 年度から 2030 年度までの 5 ヶ年を対象とする新たな中期事業計画を策定した。本計画では、「音楽を基盤とした総合的教育の充実と持続可能な財政基盤の確立」を基本目標とし、教育および経営の両面における取り組みの方向性を整理した。

附属音楽幼稚園については、少子化の進行による園児数の減少や施設・体制面の制約等を踏まえ、将来にわたり安定的な運営の見通しが立たないと判断し、2028 年度末をもって閉園することを 2025 年 3 月の理事会において決議した。閉園までの期間については、教育の質を維持しつつ運営を継続する。

箕面校地については、長期間にわたり十分な活用がなされていない状況や立地上の制約を踏まえ、維持管理の在り方を検討した結果、当該校地を不動産会社へ売却した。

以上のとおり、2025 年度は法制度改正への対応を契機として、組織体制の見直し、教育体制の再編、中期計画の策定、附属幼稚園の閉園決定および資産の整理などを進めた年度である。

【4】中期事業計画（2021-2025 年度）

2025 年度（令和 7 年度）は、中期事業計画「新たな音楽大学への事業再構築（2021-2025 年度）」の最終年度にあたる。

本計画は、「財政基盤の安定化」を重要課題として推進してきたものであり、2025 年度は既存事業の見直しと次期中期事業計画に向けた基盤整備を含め、その取組状況について次のとおり総括する。

・新たな成長戦略

2022 年度開設の大学「ミュージックビジネス専攻」が完成年度を迎え、新たな人材育成の基盤を構築した。また、短大「音響照明コース」の設置や、大学「音楽クリエイター専攻」の開設決定など、社会的ニーズに対応した教育体系の整備を進めた。

キャリア支援では、企業開拓や個別面談の充実により、学生支援体制の強化を図った。

一方で、18 歳人口減少や大学間競争の激化により、安定的な学生確保は継続課題となっている。短大については入学定員の見直しを行った。次期計画において教育体系の再構築を進める。

・事業の見直しと効率化

教学面では、専門科目の共通化や授業の統廃合を進め、授業規模の適正化に取り組んだ。

事務運営では、届出等のデジタル化を推進し、業務効率化や超過勤務削減を進めた。今後は、AI 等を活用した DX 推進による業務の質向上と組織運営の効率化を図る。また、中期計画期間中には、楽器資料館の縮小・移転、東京ブランチの閉鎖、箕面校地の処分決定を行った。

さらに、附属幼稚園については、少子化や施設面の課題を踏まえ、2028 年度末での閉園を決定した。

・学修者本位の教育と人材育成

既存施設のリニューアルや DAW 機器、無線 LAN 等の ICT 教育環境整備を進めた。また、求める教員像の明文化や、若手職員への教務経験を基盤とした人材育成を進め、組織活性化に取り組んだ。

人事評価制度の実質化については、次期中期事業計画における継続課題とする。

・財務体質の健全化とガバナンス

収支安定化に向け、新たな教育分野の構築、教職員の新規採用抑制、事業見直しによる経費削減を進めた。

一方で、今後の大幅な 18 歳人口減少を見据えると、継続的な収支改善と事業構造改革が必要な状況にある。また、改正私立学校法への対応として、新寄附行為に基づく新たな理事会・評議員会体制へ移行し、ガバナンス体制および内部統制体制の強化を図った。

今後、次期中期事業計画に基づき、教育と経営の両面から持続可能な大学運営に取り組む。

Ⅲ 財務の概要

(1) 決算の概要

① 貸借対照表関係

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

(単位:千円)

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
固定資産	14,684,253	14,240,018	13,952,277	13,866,314	13,656,143
流動資産	1,111,017	905,064	824,639	689,732	593,583
資産の部合計	15,795,270	15,145,082	14,776,916	14,556,046	14,249,726
固定負債	2,111,718	1,988,794	1,820,957	1,740,067	1,621,706
流動負債	279,077	255,146	279,528	273,289	272,033
負債の部合計	2,390,795	2,243,940	2,100,485	2,013,355	1,893,739
基本金	18,062,494	18,079,606	18,128,629	18,137,496	18,180,775
繰越収支差額	-4,658,019	-5,178,464	-5,452,198	-5,594,805	-5,824,787
純資産の部合計	13,404,475	12,901,142	12,676,431	12,542,691	12,355,987
負債及び純資産の部合計	15,795,270	15,145,082	14,776,916	14,556,046	14,249,726

※四捨五入の関係で計算式と合致しない箇所があります。

イ) 財務比率の経年比較

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	
固定資産構成 比率	固定資産 総資産	93.0	94.0	94.4	95.3	95.8
固定資産の総資産に占める構成割合で、流動資産構成比率とともに資産構成のバランスを全体的に見るための指標。						
流動比率	流動資産 流動負債	398.1	354.7	295.0	252.4	218.3
流動負債に対する流動資産の割合。学校法人の資金流動性すなわち短期的な支払能力を判断する指標。						
総負債比率	総負債 総資産	15.1	14.8	14.2	13.8	13.3
固定負債と流動負債を合計した負債総額の総資産に対する割合で、総資産に対する他人資金の比重を評価する比率。						
前受金保有率	現金預金 前受金	1052.4	876.6	851.2	1052.4	660.5
前受金と現金預金との割合で、当該年度に収受している翌年度分の入学金等が、翌年度繰越支払資金たる現金預金の形で当該年度末に適切に保有されているかを測る比率。						
特定資産構成 比率	特定資産 総資産	25.1	25.0	25.3	25.1	28.3
特定資産の総資産に占める構成割合で、各種引当特定資産などの長期にわたって特定の目的のために保有する金融資産の蓄積状況を評価する指標。						

② 資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位:千円)

収入の部	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
学生生徒等納付金収入	2,140,928	2,173,833	2,228,416	2,256,759	2,190,189
手数料収入	17,763	18,374	16,929	15,441	14,603
寄付金収入	0	0	566	599	309
補助金収入	251,257	300,826	298,471	280,930	357,141
資産売却収入	105,164	120,954	154,160	2,187	137,291
付随事業・収益事業収入	140,642	165,522	169,359	170,017	179,824
受取利息・配当金収入	83,904	104,089	110,651	129,680	120,896
雑収入	218,015	203,008	264,567	188,113	173,492
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	87,270	93,360	84,560	80,420	71,880
その他の収入	1,234,966	916,409	939,753	1,340,462	1,145,445
資金収入調整勘定	-162,697	-164,229	-188,190	-152,645	-174,879
前年度繰越支払資金	1,132,455	918,470	818,428	719,778	613,072
収入の部合計	5,249,667	4,850,616	4,897,670	5,031,740	4,829,262

支出の部	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
人件費支出	1,863,241	1,904,684	1,988,178	1,863,706	1,772,148
教育研究経費支出	817,861	825,498	846,368	845,799	896,539
管理経費支出	283,895	299,930	323,424	310,348	364,065
借入金等利息支出	5,249	4,788	4,313	4,067	3,558
借入金等返済支出	98,220	98,220	95,720	100,720	98,220
施設関係支出	144,612	176,948	12,480	22,269	31,768
設備関係支出	89,237	45,994	102,827	80,082	42,648
資産運用支出	511,080	164,733	245,947	709,118	566,832
その他の支出	574,155	545,036	640,311	566,488	621,455
資金支出調整勘定	-56,353	-33,643	-81,676	-83,927	-42,767
翌年度繰越支払資金	918,470	818,428	719,778	613,072	474,796
支出の部合計	5,249,667	4,850,616	4,897,670	5,031,740	4,829,262

※四捨五入の関係で計算式と合致しない箇所があります。

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位:千円)

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	2,760,660	2,860,597	2,970,321	2,911,859	2,915,476
教育活動資金支出計	2,964,997	3,030,112	3,157,970	3,019,853	3,032,752
差引	-204,337	-169,515	-187,649	-107,994	-117,275
調整勘定等	-22,934	-12,899	20,096	2,785	-69,691
教育活動資金収支差額	-227,271	-182,414	-167,553	-105,209	-186,967
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	245,109	255,723	112,147	313,484	207,648
施設整備等活動資金支出計	333,849	273,177	214,797	349,456	278,448
差引	-88,740	-17,454	-102,650	-35,971	-70,800
調整勘定等	28,871	0	1,099	51,438	0
施設整備等活動資金収支差額	-59,869	-17,454	-101,551	15,466	-70,800
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	-287,140	-199,868	-269,104	-89,742	-257,767
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	1,119,011	806,704	1,023,360	1,063,924	1,129,125
その他の活動資金支出計	1,046,282	706,878	852,907	1,080,887	1,009,634
差引	72,729	99,826	170,453	-16,964	119,492
調整勘定等	426	0	0	0	0
その他の活動資金収支差額	73,155	99,826	170,453	-16,964	119,492
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	-213,985	-100,042	-98,651	-106,706	-138,276
前年度繰越支払資金	1,132,455	918,470	818,428	719,778	613,072
翌年度繰越支払資金	918,470	818,428	719,778	613,072	474,796

ウ) 財務比率の経年比較

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
教育活動資金	教育活動資金収支差額				
収支差額比率	-8.2	-6.4	-5.6	-3.6	-5.8
教育活動資金収支差額の教育活動収入に占める割合を示し、学校法人における本業である「教育活動」でキャッシュフローが生み出せているかを測る比率。					

③ 事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

	科目	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	2,140,928	2,173,833	2,228,416	2,256,759	2,190,189
	手数料	17,763	18,374	16,929	15,441	14,603
	寄付金	1,666	0	50,929	630	535
	経常費等補助金	243,312	299,859	290,484	280,930	357,059
	付随事業収入	140,642	165,522	169,359	170,017	179,824
	雑収入	218,015	203,008	264,567	188,113	173,492
	教育活動収入計	2,762,326	2,860,596	3,020,684	2,911,889	2,915,702
	事業活動支出の部					
	人件費	1,794,949	1,877,479	1,894,774	1,855,408	1,745,776
	教育研究経費	1,128,192	1,143,866	1,168,749	1,177,159	1,232,387
	管理経費	319,385	336,028	359,541	340,062	394,775
	徴収不能額等	0	0	0	0	0
	教育活動支出計	3,242,526	3,357,374	3,423,064	3,372,630	3,372,938
	教育活動収支差額	-457,679	-480,200	-496,777	-402,380	-457,235
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	83,904	104,089	110,651	129,680	120,896
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	83,904	104,089	110,651	129,680	120,896
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	5,249	4,788	4,313	4,067	3,558
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	5,249	4,788	4,313	4,067	3,558
	教育活動外収支差額	78,655	99,301	106,338	125,612	117,338
	経常収支差額	-401,545	-397,476	-296,042	-335,128	-339,898
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	4,657	5,194	63,350	238,295	186,062
	その他の特別収入	10,894	3,016	8,660	3,320	1,342
	特別収入計	15,551	8,210	72,010	241,616	187,404
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	27,745	114,066	622	39,943	333
	その他の特別支出	0	0	57	285	33,877
	特別支出計	27,745	114,066	679	40,228	34,210
	特別収支差額	-12,194	-105,856	71,331	201,388	153,194
	基本金組入前当年度収支差額	-413,739	-503,333	-224,711	-133,740	-186,703
	基本金組入額合計	-122,897	-17,112	-49,023	-8,867	-43,279
	当年度収支差額	-536,636	-520,445	-273,734	-142,607	-229,982

前年度繰越収支差額	-4,121,383	-4,658,019	-5,178,464	-5,452,198	-5,594,805
基本金取崩額	0	0	0	0	0
翌年度繰越収支差額	-4,658,019	-5,178,464	-5,452,198	-5,594,805	-5,824,787
(参考)					
事業活動収入計	2,861,781	2,972,895	3,203,345	3,283,185	3,224,002
事業活動支出計	3,275,520	3,476,228	3,428,056	3,416,925	3,410,706

※四捨五入の関係で計算式と合致しない箇所があります。

イ) 財務比率の経年比較

		2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 経常収入	75.2	73.3	71.2	74.2	75.1
学生生徒等納付金の経常収入に占める割合。学生生徒等納付金は、学生生徒等の増減並びに納付金の水準の高低の影響を受けるが、学校法人の帰属収入の中で最大の割合を占めており、補助金や寄付金と比べて外部要因に影響されることが少ない重要な自己財源であることから、この比率が安定的に推移することが望ましい。						
人件費比率	人件費 経常収入	63.1	63.3	60.5	61.0	51.8
人件費の経常収入に占める割合。						
教育研究経費比率	教育研究経費 経常収入	39.6	38.6	37.3	38.7	40.6
教育研究経費の経常収入に占める割合。教育研究経費には消耗品費、光熱水費、旅費交通費、委託費、修繕費等の各種支出に加え教育研究用固定資産に係る減価償却額が含まれている。						
管理経費比率	管理経費 経常収入	11.2	11.3	11.5	11.2	13.0
経常収入に対する管理経費の占める割合。管理経費は教育研究活動以外の目的で支出される経費であり、学校法人の運営のため、ある程度の支出は止むを得ないものの、比率としては低い方が望ましい。						
補助金比率	補助金 事業活動収入	8.8	10.1	7.8	8.6	11.1
国又は地方公共団体の補助金の事業活動収入に占める割合。						
補助金:経常費等補助金+施設設備補助金						

(2) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

資金収入の合計は 4,829,262 千円で、主な科目の内訳は、学生生徒等納付金収入 2,190,189 千円、補助金収入 357,141 千円、付随事業・収益事業収入 179,824 千円、受取利息・配当金収入 120,896 千円、雑収入 173,492 千円、前受金収入 71,880 千円、その他の収入 1,145,445 千円である。資金支出の合計は 4,829,262 千円で、主な科目の内訳は、人件費支出 1,772,148 千円、教育研究経費支出 896,539 千円、管理経費支出 364,065 千円、資産運用支出 566,832 千円、その他の支出 621,455 千円である。2025 年度の翌年度繰越支払資金は 474,796 千円となり、前年度繰越支払資金より 138,276 千円減少した。

教育活動収入計は本業である教育活動に係る収入で、学生生徒等納付金、手数料、寄付金、経常費等補助金、付随事業収入、雑収入の合計で 2,915,702 千円であり、学生生徒等納付金比率は 75.1 パーセントとなる。教

育活動支出計は人件費（退職給与引当金繰入額を含む）、教育研究経費（減価償却額を含む）、管理経費（減価償却額を含む）等の合計で、3,372,938 千円であり、人件費比率は 51.8 パーセントとなる。教育活動支出計が教育活動収入計を上回った結果、教育活動収支差額が 457,235 千円の支出超過、教育活動外収支差額は 117,338 千円の収入超過、経常収支差額は 339,898 千円の支出超過となった。特別収支差額は 153,194 千円の収入超過となり、基本金組入前当年度収支差額は 186,703 千円の支出超過となった。基本金組入額は 43,279 千円となり、前年度までの支出超過累積額 5,594,805 千円を差し引きし、翌年度繰越収支差額は 5,824,787 千円の支出超過となった。

貸借対照表上の 2026 年 3 月 31 日における財政状態は、資産 14,249,726 千円、負債 1,893,739 千円となっている。

▼2025年度 法人の動き

日付	内容	場所
＜A. 教育・研究事業＞		
2025年4月2日	学生定期健康診断(4/2、4/3、4/4)	大阪音楽大学
2025年4月4日	音楽幼稚園 第58回入園式	音楽幼稚園
2025年4月10日	堺市消防音楽隊 採用説明会	キャリア支援センター
2025年4月15日	韓国語講座ガイダンス	B205
2025年4月16日	カワイ音楽教室講師 採用説明会	A305
2025年4月18日	大学3年生・短大1年生のための進路ガイダンス	B402
2025年4月22日	よしもとブロードテック他 採用説明会	A305
2025年4月22日	アルヴィダス・カズラウスカス氏 特別講義[他 4/24]	O101
2025年4月23日	大学3年生・短大1年生のための進路ガイダンス	B402
2025年4月23日	ケルン音楽大学教授 アンドレアス・フレーリッヒ氏 特別講義	F510
2025年4月24日	ラトビア国立音楽院 Jachin Edward Pousson氏 Jazz特別講義	ばうぜ2階
2025年4月25日	教員採用試験 説明会【兵庫県】	オンライン
2025年4月28日	就活対策セミナー(スタートアップガイダンス)	F215
2025年4月28日	教授会①	会議室
2025年4月30日	教員採用試験 説明会【愛媛県】	キャリア支援センター
2025年5月3日	親子で楽しむファミリーコンサート ピアノ ピアノ ピアノ	ミレニアムホール
2025年5月8日	就活対策セミナー(スタートアップガイダンス)	F215
2025年5月10日	常翔学園・大阪音楽大学 連携協定記念プロジェクト[常翔ロビーコンサート]【他 6/14、7/12、9/13、10/11、11/8、12/20、2026/1/10、2/14】	OIT梅田タワー1階
2025年5月12日	高谷光信氏 特別講義 ウクライナ音楽界の現在にみる戦争と音楽	B102
2025年5月12日	竹本節子客員教授 声楽特別講義	F434
2025年5月13日	パソナ音楽島 採用説明会	オンライン
2025年5月13日	韓国語講座(全10回)[他 5/20、5/27、6/3、6/10、6/17、6/24、7/1、7/8、7/15]	B205
2025年5月14日	就活対策セミナー(音楽・エンタメ業界セミナー)	B206
2025年5月15日	メキシカン・マリンバ奏者 ハビエル・ナンダヤバ氏 特別講義	ミレニアムホール
2025年5月19日	第83回ミレニアム・スチューデント・コンサート 第1夜 【他 第2夜5/20、第3夜5/21、第84回第1夜6/11、第2夜6/12、第3夜6/13】	ミレニアムホール
2025年5月19日	就活対策セミナー(夏のIS選考対策:WEB面接)	B101
2025年5月21日	シンユニティ・グループ 採用説明会	オンライン
2025年5月24日	アンドレアス・ホフマイヤー氏 テューバマスタークラス	O202
2025年5月26日	教授会②	会議室
2025年5月27日	パソナ音楽島(舞台技術職) 採用説明会	オンライン
2025年5月28日	2025年度第1回ミレニアムピアノコンサート 【他 第2回6/20、第3回7/22、第4回9/18、第5回10/24、第6回11/26、第7回12/16】	ミレニアムホール
2025年5月28日	株式会社大阪音研 採用説明会	オンライン
2025年5月29日	トリオヘルメス 弦楽器マスタークラス	ミレニアムホール
2025年5月30日	トリオ・ヘルメス コンサート	ザ・カレッジ・オペラハウス
2025年5月30日	就活対策セミナー(夏のIS選考対策:自己紹介動画作成)	B102
2025年6月1日	吹奏楽フェスティバル2025	ザ・カレッジ・オペラハウス

▼2025年度 法人の動き

日付	内容	場所
2025年6月4日	株式会社大阪共立 採用説明会	B206
2025年6月5日	ヤマハ音楽能力検定 ピアノ演奏グレード5級取得準備講座（全4回）[他 6/12、6/19、6/26]	B205
2025年6月6日	株式会社日テレアックスオン 採用説明会	B102
2025年6月13日	就活対策セミナー（SPI能力検査受検会）	F212
2025年6月19日	福川伸陽氏 ホルン特別講義	O103
2025年6月23日	教授会③	会議室
2025年6月24日	就活対策セミナー（夏のIS選考対策：ES作成）	A305
2025年6月28日	ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団 第66回定期演奏会	ザ・カレッジ・オペラハウス
2025年6月30日	自衛隊音楽隊 採用説明会	キャリア支援センター
2025年7月5日	大阪音楽大学吹奏楽団 サマー・コンサート2025	ザ・カレッジ・オペラハウス
2025年7月5日	上村昇客員教授 チェロ特別講義	O103
2025年7月10日	有限会社プラム 採用説明会	オンライン
2025年7月14日	音楽留学セミナー	オンライン
2025年7月17日	大萩康司客員教授 在学生に向けた公開レッスン	O103
2025年7月18日	大阪音楽大学管弦楽団 サマー・コンサート2025	ザ・カレッジ・オペラハウス
2025年7月21日	教授会④	会議室
2025年7月24日	ヨズア・バルチュ氏 声楽特別講義	B102
2025年7月27日	ザ・カレッジ・オペラハウス少年少女合唱団 体験会	ザ・カレッジ・オペラハウス
2025年7月30日	教採 実技試験対策講座（弾き歌い）	F215
2025年7月30日	教採 実技試験対策講座（和楽器）	F106
2025年7月31日	教採 実技試験対策講座（リコーダー）	B103
2025年8月8日	教採 実技試験対策講座（模擬授業・弾き歌い）	F215
2025年8月15日	フローラン・エオー客員教授 クラリネット特別講義	O101
2025年8月16日	教採 実技試験対策講座（模擬授業・弾き歌い）	A305
2025年8月20日	教採 実技試験対策講座（模擬授業・弾き歌い）	A305
2025年8月20日	東映 京都撮影所 見学会	東映京都撮影所
2025年8月25日	進学コース前期実技試験 兼 音楽院区分事前審査	大阪音楽大学 第2キャンパス O101・K507
2025年8月31日	音とリズムでめぐるリトミックコンサート	ザ・カレッジ・オペラハウス
2025年9月16日	TOEIC®L&Rテスト対策講座ガイダンス	B205
2025年9月18日	ヤマハ音楽能力検定 指導グレード5級トライアル講座	B205
2025年9月20日	カワイピアノグレード6級 学内認定特別講習	F109
2025年9月22日	教授会⑤	会議室
2025年9月24日	大学2年生・短大1年生のための進路ガイダンス	B402
2025年9月25日	大学2年生・短大1年生のための進路ガイダンス	B402
2025年9月30日	TOEIC®L&Rテスト対策講座（全10回） [他 10/7、10/14、10/21、10/28、11/4、11/11、11/18、11/25、12/2]	B205
2025年10月2日	ヤマハ音楽能力検定 指導グレード5級取得準備講座（全7回）[他 10/9、10/16、10/23、11/6、11/13、11/20]	B205
2025年10月5日	ワークショップコンサート 暮らしっくおんがく探検隊	ザ・カレッジ・オペラハウス

▼2025年度 法人の動き

日付	内容	場所
2025年10月8日	就活対策セミナー(就活リスタート)	B102
2025年10月9日	株式会社シグマコミュニケーションズ 採用説明会	オンライン
2025年10月10日	就活対策セミナー(スタートアップガイダンス)	F215
2025年10月12日	大阪音楽大学創立110周年記念演奏会	ザ・カレッジ・オペラハウス
2025年10月12日	音楽幼稚園 第58回運動会	音楽幼稚園
2025年10月14日	ダリオ・マカルーソ氏 クラシックギター マスタークラス	O104
2025年10月16日	パソナ音楽島 採用説明会	オンライン
2025年10月17日	第45回インターンシップ 説明会	B401
2025年10月18日	シプリアン・カツァリス マスタークラス	ザ・カレッジ・オペラハウス
2025年10月19日	シプリアン・カツァリス マスタークラス	ザ・カレッジ・オペラハウス
2025年10月20日	第85回ミレニアム・スチューデント・コンサート 第1夜 【他 第2夜10/21、第3夜10/22、第86回第1夜11/4、第2夜11/5、第3夜11/6】	ミレニアムホール
2025年10月20日	よしもとブロードテック 採用説明会	B206
2025年10月25日	キャリア支援に関する保護者対象説明会	ミレニアムホール
2025年10月27日	マチュー・プティジャン氏 オーボエ マスタークラス	O105
2025年10月27日	教授会⑥	会議室
2025年10月28日	デトモルト音楽大学教授 ヤコブ・ロイシュナー氏 特別講義	F510
2025年10月31日	音楽教室起業セミナー	B207
2025年11月5日	就活対策セミナー(冬のIS・本選考対策:ES作成)	B101
2025年11月6日	大阪市教員採用試験説明会	キャリア支援センター
2025年11月7日	崔勝貴氏 西洋音楽史概説B 特別講義	F434
2025年11月9日	ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団 第67回定期演奏会	ザ・カレッジ・オペラハウス
2025年11月10日	就活対策セミナー(冬のIS・本選考対策:WEB面接&グループディスカッション)	B206
2025年11月14日	第37回ザ・コンチェルト・コンサート	ザ・カレッジ・オペラハウス
2025年11月14日	株式会社ジーアングル 企業・採用説明会	A305
2025年11月15日	第48回邦楽演奏会	ミレニアムホール
2025年11月18日	大阪音楽大学大学院 定期演奏会2025	ザ・カレッジ・オペラハウス
2025年11月21日	株式会社ノイジークローク 企業・採用説明会	オンライン
2025年11月24日	教授会⑦	会議室
2025年11月25日	株式会社ポニーキャニオン(エリアアライアンス部)業務説明会	B206
2025年12月1日	三木楽器株式会社 講師採用説明会	B206
2025年12月3日	職業作曲家による講話・楽曲アドバイス(加藤裕介氏)	F215
2025年12月4日	豊能地区教員採用試験 説明会	キャリア支援センター
2025年12月6日	大阪音楽大学 第68回定期演奏会	ザ・シンフォニーホール
2025年12月6日	音楽幼稚園 作品展「キッズミュージアム」	音楽幼稚園
2025年12月7日	～万国博覧会にでかけよう～世界のクリスマスコンサート	ザ・カレッジ・オペラハウス
2025年12月8日	大学院2年修士演奏会(歌曲) 【他 オペラ12/11、ピアノ2025-1-14、管弦打1/15】	ザ・カレッジ・オペラハウス
2025年12月8日	株式会社カプコン 採用説明会	B206

▼2025年度 法人の動き

日付	内容	場所
2025年12月9日	株式会社東京舞台照明大阪 採用説明会	B102
2025年12月9日	ファブリス・モレティ客員教授 特別講義	O101
2025年12月12日	ビジネスマナー講座(対象:学内インターンシップ申込者)	F215
2025年12月15日	アレクサンダー・コプリン氏 ピアノ特別講義[他 12/16]	F510
2025年12月17日	阪急ジョブ・エール&阪急百貨店吹奏楽団 説明会	オンライン
2025年12月19日	株式会社日テレアックスオン 採用説明会	オンライン
2025年12月20日	アルバム・アートワーク・セミナー	A301
2025年12月20日	榎木実氏 舞台照明特別講義	ミレニアムホール
2025年12月22日	第5回 NEXT DESIGN 第34回大阪音楽大学電子オルガン・コンサート	ザ・カレッジ・オペラハウス
2025年12月22日	大阪音楽大学短期大学部 作曲デザイン・コース・コンサート	ザ・カレッジ・オペラハウス
2025年12月22日	教授会⑧	会議室
2025年12月23日	兵庫県教員採用試験 説明会	オンライン
2025年12月23日	中村敬一客員教授 特別講義	K603
2026年1月9日	株式会社スクウェア・エニックス 採用説明会	K420
2026年1月10日	第58回合唱発表会	ザ・カレッジ・オペラハウス
2026年1月10日	上村昇客員教授 チェロ特別講義	O103
2026年1月13日	株式会社光和 採用説明会	キャリア支援センター
2026年1月13日	神戸市役所 デザイン・クリエイティブ枠 採用説明会	D101
2026年1月16日	ヤマハシステム講師 採用説明会	A305
2026年1月19日	自衛隊音楽隊 採用説明会	キャリア支援センター
2026年1月19日	呉信一客員教授 特別講義	O101
2026年1月26日	教授会⑨	会議室
2026年1月31日	田辺勝久氏 特別講義 音楽家の身体症状について ―演奏を続けるために知っておきたいこと―	F210
2026年2月1日	第45回インターンシップ 実習(～3/31)	各企業
2026年2月2日	2025年度ピアノ演奏家特別コース修了演奏会① 【他 ②2/3】	ザ・カレッジ・オペラハウス
2026年2月7日	第37回大阪音楽大学学生オペラ「コジ・ファン・トゥッテ」第1日[他 第2日2/8]	ザ・カレッジ・オペラハウス
2026年2月10日	ヨズア・バルチュ氏 声楽特別講義	B1012
2026年2月11日	大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部 ジャズ・コンサート	常翔ホール
2026年2月12日	適職を見つけようセミナー	キャリア支援センター
2026年2月13日	音楽留学セミナー(オンライン)	オンライン
2026年2月15日	大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部 ポピュラー・ミュージック・コンサート	ザ・カレッジ・オペラハウス
2026年2月15日	ミュージッククリエーションアワード2026	ミレニアムホール
2026年2月16日	東京アカデミー「教員採用試験筆記対策講座(教職教養)」	B101
2026年2月17日	大学院1年修士リサイタル 第一夜【他 第二夜2/18、第三夜2/19、第四夜2/20、第五夜2/24、第六夜2/25】	ミレニアムホール
2026年2月17日	東京アカデミー「教員採用試験筆記対策講座(教職教養)」	B101
2026年2月18日	東京アカデミー「教員採用試験筆記対策講座(教職教養)」	B101
2026年2月21日	音楽幼稚園 発表会「たのしみまショー」	音楽幼稚園

▼2025年度 法人の動き

日付	内容	場所
2026年2月22日	大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部 第23回 ザ・ストリング・コンサート	ミレニアムホール
2026年2月24日	教授会⑩	会議室
2026年2月26日	就活対策セミナー(本選考対策:集団・個人面接)	B101
2026年3月1日	大阪音楽大学 第57回吹奏楽演奏会	ザ・シンフォニーホール
2026年3月6日	株式会社エムアップホールディングス 企業説明会	オンライン
2026年3月7日	大阪音楽大学短期大学部 ミュージカル・コースDAIONミュージカル 第15回公演①②	ザ・カレッジ・オペラハウス
2026年3月11日	2025年度 大阪音楽大学短期大学部 卒業演奏会	ザ・カレッジ・オペラハウス
2026年3月11日	2025年度 大阪音楽大学 卒業演奏会 第1日【他 第2日3/12、第3日3/13】	ザ・カレッジ・オペラハウス
2026年3月15日	ザ・カレッジ・オペラハウス ジュニアオーケストラ&ザ・カレッジ・オペラハウス少年少女合唱団 合同定期演奏会	ザ・カレッジ・オペラハウス
2026年3月17日	神戸市スクールサポーター制度 説明会	キャリア支援センター
2026年3月17日	教採実技対策講座(弾き歌い)	F215
2026年3月17日	荒田祐子教授 声楽特別講義	K603
2026年3月19日	音楽幼稚園 第59回卒園式	音楽幼稚園
2026年3月20日	2025年度 大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部 ジュニア吹奏楽団演奏会	ザ・カレッジ・オペラハウス
2026年3月23日	教授会⑪	会議室
2026年3月24日	株式会社ワタナベエンターテインメント 企業説明会	オンライン
2026年3月24日	教採 集団面接・討論 対策講座	B206
2026年3月27日	大阪府豊能地区教員採用試験 説明会	キャリア支援センター
2026年3月27日	進学コース後期実技試験、修了コンサート	ミレニアムホール
＜B. 社会連携事業＞		
2025年5月7日	渡辺紗蘭 ヴァイオリンリサイタル	ミレニアムホール
2025年6月20日	豊中市「サウンドスクール事業」第十七中学校(吹奏楽)【他 6月～3月まで、こども園12件、小学校76件、中学校19件、義務教育学校3件】	豊中市内こども園、小学校・中学校
2025年7月20日	女声コーラスコンサート	ミレニアムホール
2025年7月21日	アンサンブルパーティー	ミレニアムホール
2025年8月30日	進学実技適性テスト	大阪音楽大学
2025年8月31日	進学実技適性テスト	大阪音楽大学
2025年9月8日	大学3年次編入推薦・短大専攻科特別入学者選抜	大阪音楽大学
2025年9月21日	ピアノアンサンブルコンサート	ミレニアムホール
2025年9月27日	大学院入学者選抜前期日程	大阪音楽大学
2025年9月28日	第13回 豊中こども音楽フェスティバル	ザ・カレッジ・オペラハウス
2025年9月28日	大学院入学者選抜前期日程	大阪音楽大学
2025年10月18日	大学・短大 総合型選抜	大阪音楽大学
2025年10月19日	大学・短大 総合型選抜	大阪音楽大学
2025年10月21日	シプリアン・カツァリス ピアノリサイタル	ザ・カレッジ・オペラハウス
2025年10月26日	第10回 豊中音楽コンクール 受賞者記念コンサート	ザ・カレッジ・オペラハウス
2025年10月31日	ジョルジュ・サンド・トリオ「モーツァルトの夢の日本旅行」もし、モーツァルトが日本に来ていたら!?	ミレニアムホール
2025年11月3日	大阪音楽大学開放講座「音楽・心の旅」【他 12/4】	豊中市立中央公民館

▼2025年度 法人の動き

日付	内容	場所
2025年11月7日	けやきの森市民大学 大阪音楽大学公開講座「音楽の宝宝箱」【他 11/14、11/21、11/28】	高槻市生涯学習センター
2025年11月27日	大学・短大 学校推薦型選抜[在学生立入禁止]	大阪音楽大学
2025年11月28日	大学・短大 学校推薦型選抜[在学生立入禁止]	大阪音楽大学
2026年2月4日	大学・短大 一般選抜	大阪音楽大学
2026年2月5日	大学・短大 一般選抜	大阪音楽大学
2026年2月6日	大学・短大 一般選抜	大阪音楽大学
2026年2月7日	大学・短大 一般選抜	大阪音楽大学
2026年2月12日	学3編入一般入学者選抜	大阪音楽大学
2026年2月13日	学3編入一般・短専・大専入学者選抜	大阪音楽大学
2026年2月14日	学3編入一般・短専・大専入学者選抜	大阪音楽大学
2026年2月23日	器楽合同発表会①	ミレニアムホール
2026年2月27日	大学院入学者選抜前期日程	大阪音楽大学
2026年2月28日	大学院入学者選抜前期日程	大阪音楽大学
2026年3月1日	声楽合同発表会①	ミレニアムホール
2026年3月1日	オルガンコンサート	大阪音楽大学 第2キャンパス K301
2026年3月8日	声楽合同発表会②	ミレニアムホール
2026年3月14日	器楽合同発表会②	ミレニアムホール
2026年3月15日	声楽合同発表会③	ミレニアムホール
2026年3月16日	大学・短大 後期総合型選抜[在学生立入禁止]	大阪音楽大学
2026年3月20日	ミュージックカーニバル①	ミレニアムホール
2026年3月28日	ミュージックカーニバル②	ミレニアムホール
2026年3月29日	ミュージックカーニバル③	ミレニアムホール
2026年3月30日	Song meets Piano × Piano meets Song	ザ・カレッジ・オペラハウス
< C. 法人組織運営事業 >		
2025年4月22日	第1回理事会 (17:00～)	会議室
2025年4月22日	第2回理事会 (17:45～)	会議室
2025年4月22日	第1回評議員会	会議室
2025年5月27日	第3回理事会	会議室
2025年5月29日	第4回理事会	会議室
2025年5月29日	第2回評議員会	会議室
2025年6月24日	第5回理事会	会議室
2025年9月25日	第6回理事会	会議室
2025年10月15日	創立記念日	
2025年11月27日	臨時理事会	役員応接室
2025年11月27日	第3回評議員会	F215
2025年12月11日	第7回理事会	会議室
2026年3月18日	第8回理事会	会議室
2026年3月18日	第4回評議員会	会議室
2026年3月31日	東京ランチを閉鎖	